

大阪医科薬科大学 仁泉会 ニュース

仁泉会ニュース 第54巻第1号

発行所

〒569-8686 高槻市大学町 2-7

電話 FAX

072-682-6166 072-682-6636

発行者 発行部数

安藤嗣彦 6,250部

URL

http://www.jinsenkai.net

100% 手作りのお世話®



成婚率の高さが決め手
 コンピューターを一切使わず、すべて100%手づくりの誠実なマンツーマンシステムです。また、ご家庭環境、お人柄等バランスのとれたご紹介を重視し、無駄のないお出会いを実施しています。ご成婚重視と、プライバシー厳守のため、自社会員のみのご紹介をいたしております。

結婚物語 弾む心 (母の思い)

弾みます。弾みます。心が弾みます。前に座っている主人にも、ちょっとは落ち着きなさい、とたしなめられ、自分でもわかってはいるのですが、この弾む思いは如何ともし難いのでございます。長年人さまの... → 続きはWebで [エムロード結婚](#)

Marriage Road 結婚

資料無料 •ドクターズ •エグゼクティブ •スタンダード 各コース

0120-4122-46 10:00~18:00 水曜定休

大阪本社 〒530-0043 大阪市北区天満3-2-2 エムロードビル3F

エムロードはここが違います

- 1 成婚率の高さ
- 2 質の高い会員層
- 3 専任アドバイザーによる一貫したお世話
- 4 自社会員のみ構成
- 5 個人情報のパーフェクト・プロテクション

神戸 神戸国際会館22F

京都 オフィス・ワン四條烏丸6F

東京 丸の内トラストタワー20F



謹賀新年

目次

新年のご挨拶

- P3 大阪医科薬科大学仁泉会 理事長
- P4 学校法人大阪医科薬科大学 理事長
- P6 大阪医科薬科大学 学長
- P9 東日本支部長
- P9 長野県支部長
- P10 静岡県支部長
- P10 岐阜県支部長
- P11 仁泉会大阪府支部連合会会長
- P12 港区支部長
- P12 阿倍野区支部長
- P12 生野区支部長
- P14 住吉住之江区支部長
- P14 東大阪市支部長
- P15 高槻市支部長
- P15 京都仁泉会 会長
- P17 川西支部長
- P18 島根県支部長
- P18 愛媛県支部長
- P19 長崎県支部長
- P20 学部22期評議員

受章受賞報告

- P21 瑞宝小綬章 保健衛生功労
- P21 旭日双光章 保健衛生功労
- P21 国民健康保険中央会表彰
- P21 厚生労働大臣表彰 社会保険診療報酬支払基金関係功労者支部だより
- P22 令和4年度仁泉会和歌山県支部総会の報告
- P24 仁泉会阿倍野支部総会ならびに音楽会の報告
クラス会だより
- P25 あかつき会 in 京都 2022.10.23 (学24期クラス会)
- P26 大阪医科大学 52年卒 (学26期) 同期会の報告

仁泉ひろば

- P28 語源クイズ (1)
- P30 南米ポリビアでの思い出～美女とお祭り～
- P32 青葉茂れる桜井の駅について
- P33 高医16期卒 前田義雄先生について 第3回

- P34 会員著書 東野正明先生 (学49期)
- P36 新聞切抜 赤尾幸博先生 (学27期) 教授、研究成果発表
- P37 まんが第59回
- P38 開業しました!

本部だより

- P39 会員計報
- P39 支部長交代のお知らせ
- P40 編集後記

- 安藤嗣彦 (学20期)
- 植木 實
- 佐野浩一
- 中嶋秀人 (学37期)
- 高島俊夫 (学21期)
- 吹田浩之 (学36期)
- 小嶋昭次郎 (学29期)
- 霜野良一 (学28期)
- 奥村隆司 (学31期)
- 福本敏子 (学24期)
- 村田高穂 (学22期)
- 濱崎憲夫 (学42期)
- 大西洋一郎 (学25期)
- 保田 浩 (学31期)
- 河野龍而 (学35期)
- 土肥恒夫 (学28期)
- 林 孝乾 (学30期)
- 井関亮甫 (学23期)
- 西脇健三郎 (学21期)
- 麻田邦夫 (学22期)

- 細井延行先生 (学23期)
- 田中孝二先生 (学25期)
- 木村 道先生 (学26期)
- 永田昌敬先生 (学30期)

- 湯川裕史 (学29期)
- 福本敏子 (学24期)

- 森本博子 (学24期)
- 水谷 均 (学26期)

- 西村 保 (学4期)
- 小笠原 博 (学13期)
- 岡野 准 (学21期)
- 西野精治 (学31期)

- 小嶋昭次郎 (学29期)
- ビン太ぼん太 (学31期)
- 伏谷英朗先生 (学47期)
- 大藪 寛先生 (学55期)
- 田中健太郎先生 (学57期)

大阪医科大学 創立100周年 記念事業

数十年先の未来医療へ

大阪医科薬科大学病院 新本館建築プロジェクト

Super Smart Hospital

スマート医療を推進する大学病院

「バイオフィリア」という概念を取り入れ、自然と触れ合うことで健康や幸せを得られる空間を実現。

AIやロボットなど先端技術を活用し、効率的で「安全・安心な高度医療」を提供。

最先端の医療技術や高度な多職種連携の学びにより次世代を担う「優れた医療人を育成」。



募集要項

募金目的▶ 大学病院新本館建築に係る資金、学生支援体制の充実
募金目標▶ 10億円
募集期間▶ ～2027年3月
募金単位▶ 個人：1口1万円、法人：1口10万円
頭 彰▶ 個人、法人ともに5口以上ご寄付いただいた方は、銘板にご芳名をしるし、末永く顕彰いたします

特 典▶ 個人：10口以上、法人：5口以上ご寄付をいただきました方は、健康科学クリニックの人間ドック（基本コース）1回分の無料受診券を進呈します。
申込方法▶ 学校法人大阪医科薬科大学寄付 WEB サイトよりお申し込みいただくか、募金推進本部迄ご連絡ください。



大阪医科薬科大学基金

大阪医科薬科大学基金は、皆様からいただいた募金を積み立てて資金運用することによりさらに増やしていくもので、基金の拡充は、長期間にわたる「教育・研究活動」「良質な医療の提供」の強化に繋がります。

募集要項

募金単位▶ 個人：1口1万円 法人：1口10万円
申込方法▶ 学校法人大阪医科薬科大学寄付WEBサイトよりお申し込みいただくか、募金推進本部迄ご連絡ください。
【お問い合わせ先】募金推進本部 072-684-7243

【税制上の優遇措置】 学校法人大阪医科薬科大学は特定公益増進法人です。大阪医科薬科大学に対するご寄付は所得税・法人税・相続税の税制上の優遇措置を受けることができます。また一部の自治体では、個人住民税の税額控除の対象となります。

至誠仁術を備える人材の育成をめざして
ご支援のお願い

新年の御挨拶

大阪医科薬科大学仁泉会

理事長 安藤嗣彦 (学20期)

新年あけましておめでとうございます。

昨年の新年の挨拶時には、南アフリカより変異したオミクロン株のコロナ感染症が流行の兆しをみせ始めたと書きましたが、その後、このウイルスは変異を繰り返して感染者は減少せず、現在第8波の真っ只中にあるものと思われます。日本における新型コロナ感染症は染症の累計では、感染者2396万人、死者4万8682人も及ぶとのことです（令和4年1月22日現在）。洗浄、消毒、マスク着用の徹底に加え、ワクチン接種の履行は当然ですが、4年間も流行を続ける感染症ともなれば、人間ついで気が緩んでしまうことは仕方ない事とも思われます。政府が行っているコロナでの消費、経済衰退の対策としてg o t oトラベル等の支援策や現在開催中のサッカーワールドカップの影響が、新年を迎えた頃にどのような形で表れているのか心配です。最近、塩野義製薬から発表されたゾコーバが厚生労働省から治療薬として緊急承認されましたが、感染しないような生活習慣対策を忘れてはいけません。最近では、ちょっとした外出時に慌ててマスクを取りに帰るようなこともなくなりましたが、時折フェースシールドだけで外出される人を見かけます。止めてもらいたいものです。

昨年も支部会やクラス会の開催報告はほとんどありませんでした。年に1度の定期総会もお弁当を持ち帰りいただく形で行いました。飲食を伴わない支部会を開催された支部もありました。支部、クラス会の幹事の先生は、開催したくとも出来ないと忸怩たる思いを抱かれていますと思います。やはり懇親会がないと会員相互の親睦もままなりません。顔を見ながら「元気にしてるか？」となる日が早く来て欲しいと願うのは私だけでしょうか。

さて、そんな中で昨年、11月12日に「仁泉会in近畿」と銘打った学術講演会が、仁泉会大阪府連(霜野良一会長)の主催で大阪のホテルグランヴィ

アで開催されました。仁泉会も講演会をバックアップし、仁泉会の誌面でも告知を行いました。会場とZOOMウェビナーでのハイブリッド開催で行われ、懇親会こそありませんでしたが、コロナ禍での今後の講演会を考える新しい試みとなりました。演者は本学第3内科教授の星賀正明先生で、会場のみならず、web参加者からの質問も多く有意義な会となりました。

母校においては、大阪医科薬科大学病院に12階建ての新館A棟が完成し昨年より本格的に稼働しました。1階には三島救命救急センターが移転し、24時間救急患者を受け入れる3次医療体制が整いました。また、循環器、脳疾患等の一刻を争う患者さんに対しては即座に検査処置が行えるハイブリッド室も整備されています。今後B棟の建設も予定され、完成の暁には、西日本でも有数の大学病院となる事でしょう。

最後に、本年は新型コロナとインフルエンザの同時流行も危惧されております。くれぐれも感染対策に万全を期し、1年を乗り切ってください。

今後も仁泉会会員の先生方には、会の運営にご支援ご協力をお願いいたしまして私の新年のご挨拶にさせていただきます。



新年のご挨拶

学校法人大阪医科薬科大学
理事長 植木 實

明けましておめでとうございます。皆様におかれましてはよい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。



昨今、世界はロシアの隣国侵攻をはじめ中国や北朝鮮の強硬姿勢に脅かされ、その上、落ち着いていたかに見えたコロナ禍の第8波が窺われるなど、日本の世相は暗く、インフレも伴って経済の落ち込みは著しいものがあります。

そのような本邦の情勢の中で、令和4年（2022年）7月に大阪医科薬科大学病院新本館A棟が竣工・開院しました【写真1】。これもひとえに、仁泉会諸氏をはじめとする多くのステークホルダーの皆様の温かいご支援のお陰と感謝申し上げます。

開院に先立ち、同6月25日に病院新本館A棟竣工記念講演会並びに内覧会が盛大に行われましたが、高槻

市長をはじめ茨木市、摂津市、島本町の市長・町長、大阪府健康福祉部長、各行政幹部の皆様並びに衆議院・参議院議員、近隣大学の理事長、学長、そして設計・施工いただきました日揮株式会社、清水建設株式会社など、多くの皆様にご臨席いただき、たくさんのご祝辞を賜り、華を添えていただきました。

本学法人は、平成24年（2012年）から大学病院全建替え事業を推し進めており、嚆矢として平成28年（2016年）に中央手術棟が竣工、「24時間、手術を断らない」をモットーに、いつでも緊急手術を行える体制を整えました。続いて、平成30年（2018年）に関西B NCT共同医療センターが竣工・開院し、世界の最先端がん治療施設として注目を集めている中で多くのがん治療や治験などの症例を重ねています。その後、病院全体の電力、ガス、空調などを供給・管理する最新鋭の中央エネルギー棟の建築が進められ、令和4年（2022年）1月に完成し、既に稼働しております【写真1】。

病院新本館建築は、本大学病院全建替え事業の根幹を成すメインタワーであり、又、大阪医科大学創立100周年の記念事業としても位置付けられています。この度、竣工しました病院新本館A棟の1階には、大阪府、高槻市をはじめ、茨木市、摂津市、島本町の運営す



る大阪府三島救命救急センターの三次救急部門の機能移転に伴って新しい救命救急センターが設置され、三島二次医療圏の三次救急患者の治療は本大学病院が担うことになりました。地域の一次、二次救急の患者に加え、直ちに救命処置や緊急手術、及び複数の診療科が関わる治療が必要な三次の重症患者の治療に当たっています。3階の救命救急ICU(EICU)とは専用エレベーターで直結しており、患者様をスムーズに搬送しています。現在、本大学病院には約350人の常勤医師と約270人の非常勤医師が勤務し、救命救急の前線に対応に当たる救急医療部と総合診療科には30人余の医師を配置しています。本大学病院の救急医療部門は、この2つの科を中心に31診療科全てが連携して24時間365日体制を維持し、救急搬送を原則断らない、応需率100%を目指してスタートしています。昨年7月の開院から同11月までの実績は、それぞれ1日当たりの救急患者は16~48名(平均30.4名)、救急車は6~31台(平均17.6台)、入院は6~21名(平均11.3名)と、旧三島救命救急センター設置の目的や意志を受け継いで、三島医療圏における重症救急患者の砦となって稼働しています。

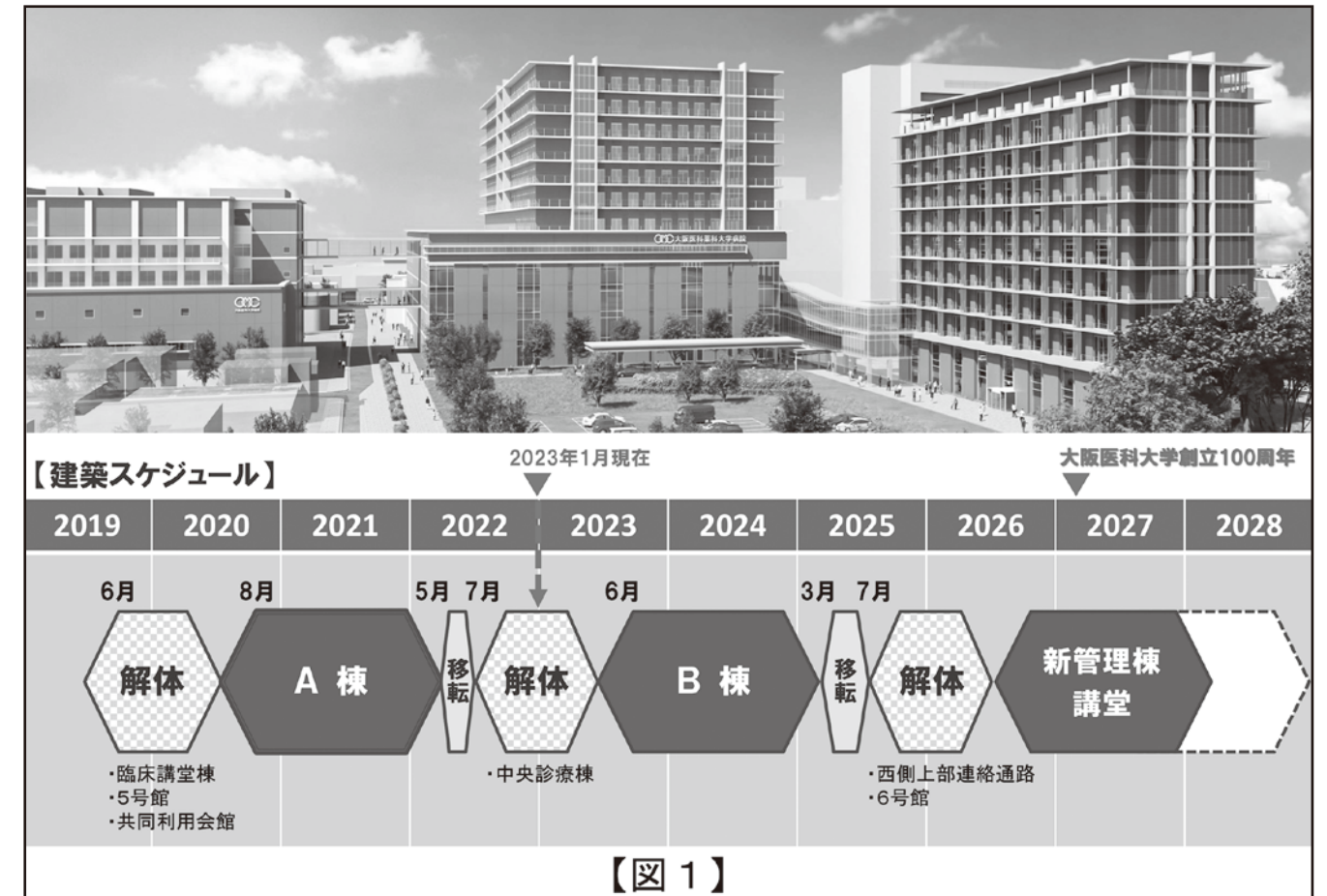
又、A棟の特長の一つとして、最上階の12階にがん

ゲノム医療など先進的ながん診療に特化した機能を集約させたがん医療総合センター及びプレジジョン・メディスンセンターを配置し、日本でまだ4台目となる抗がん剤のロボット調剤を導入する一方、A棟全体に“バイオフィリア”のコンセプトを採り入れ、自然・建築・インテリア・アートをシームレスにつないで「心地よい医療環境」を目指しています。

今後とも本大学病院は、三島医療圏唯一の三次救急を担う大学病院として、又、高度医療を提供する特定機能病院として、地域住民の皆様にご高度で安心・安全な医療を提供して参ります。

ご高承のとおり、病院新本館建築は「超スマート医療を推進する大学病院」の基本方針のもとに進められており、A棟開院後の8月からは主に外来機能を担うB棟の建築が開始され、令和7年（2025年3月）に竣工予定です。又、大講堂が入る新管理棟は、大阪医科大学創立100周年を迎える令和9年（2027年）に完成の予定です【図1】。

仁泉会の皆様におかれましては、今後ともよろしくご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げますと共に、皆様の本年のご健勝とご活躍を祈念申し上げます、新年のご挨拶と致します。



新年のご挨拶

大阪医科薬科大学
学長 佐野浩一

明けましておめでとうございます。仁泉会の皆様に謹んで新春のお慶びを申し上げます。旧年中は医学部のみならず大阪医科薬科大学に温かいご理解とご支援を賜りましたことに心より御礼申し上げますとともに本年も御高配賜りますようお願い申し上げます。



令和3（2021）年に有数の医療系総合大学を目指して大学統合を成し、2年が過ぎようとしております。その間、新型コロナウイルス感染症の流行に加え、ロシアのウクライナ侵攻に端を発したエネルギー危機や物価の高騰は私どもの日々の活動に大きな影響を与えております。そのような中でも母校大学病院は新病院建築を着実に進め第一期手術棟に続いて、昨年7月には新本館A棟が開院しました。機能的には三島二次医療圏の救命救急センターとして指定を受け、大学病院として一段と発展しております。

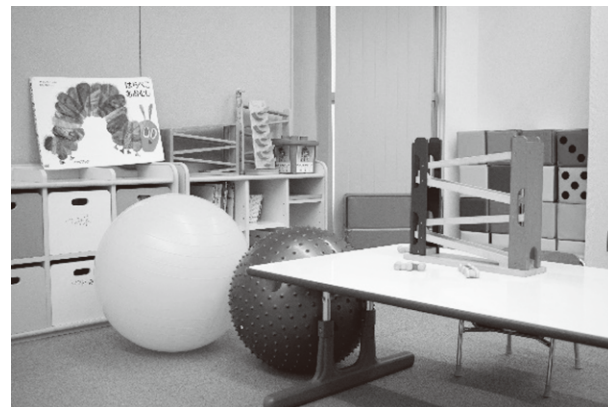


本学の研究に関しては、個々の教員の研究は、それぞれに優れたものであります。それらの研究の中で、大学として特に力を入れる課題については、研究所を設置し、集中的に研究活動を推進しています。現在、BNCT共同臨床研究所と小児高次脳機能研究所が設置されており、いずれも本学が世界に誇るものです。BNCT共同臨床研究所はアカデミアでは世界に唯一本学にしかないもので付設医療施設である関西BNCT共同医療センターとともに世界から注目を浴びており、母校医学部と薬学部の教員が参画し、日々世界最先端の研究と診療を

行っております。



また、小児高次脳機能研究所においては、発達障害児・低出生体重児・後天性脳損傷児など医療と教育が同時に必要な子供たちの認知機能に関する研究を行い、その成果をもとに指導法や訓練法などを開発し、LDセンターにて実用に供しています。また、産学連携研究においても、新たな医療に結びつく発明や発見がなされております。



大学の体制につきましては、学部を横断する仕組みとして教育機構・学生生活支援機構・研究機構・入試広報機構・国際交流機構を形成し、学部間の情報交換や共通する事項の検討を行っております。機構には専任・兼担の職員を配置し教職協働体制をとっております。機構は場（物理的空間）を持つものではなく、機能的なシステムでこれらのうち、場の形成が必要なものについては、センターや室などの実体的なシステムに移行することにして、1月1日付で国際交流機構が国際交流センターに移行し、4月1日には入試広報機構が入試広報センターに移行いたします。このような機構やセンターはそれぞれの学部の特性・独自性を尊重しつつ、大学としての統一性を確立する上で時代を先取りしているものと考えております。医療系総合大学の定義はありませんが、「医療系総合大学とは例えば大阪医科薬科大学のような・・・」と言って頂ける大学を目指して日々活動しています。

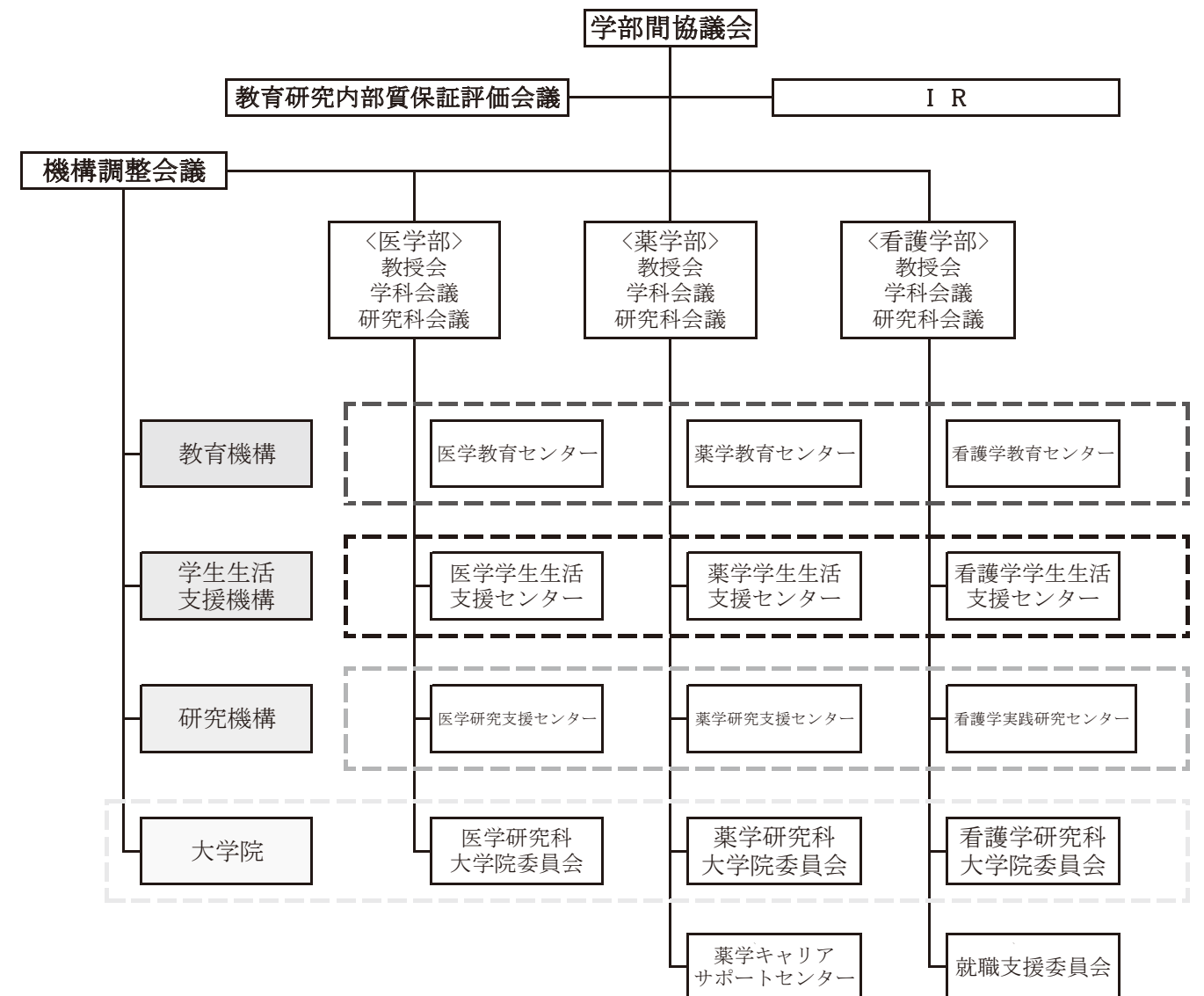
昨年10月に、平成3年の大学設置基準の大綱化以後、久々の目に見える大改正がありました。今回の改正のポイントには、①入学選抜のあり方②教員組織と事務組織を一体化した教育研究実施組織の設置③学生の人間形成に資する厚生補導組織の設置④基幹教員制度⑤講義、演習、実習の区分の廃止⑥教員や学生などの交流の場（空地）の設置⑦運動施設要件の緩和⑧図書館の情報センター化⑨大学教育改革の実証的成果創出のための特例制度等があります。

これらの変化のうちの多くは本学において既に実施あるいは企画しているもので、ある意味、日本の大学の範となるものです。例えば、①入学選抜に関しては、国公私立大学で推薦入学制度が一般化し、特に国立大学医学部ではほぼすべての大学で推薦入学によって、前年12月1日に入学者を決定しております。母校医学部では学力選抜を中心に入学者を決定していますので2月以

降にしか入学者を決定できず、従前であれば、本学に入学したであろう優秀な学生が前年のうちに他大学の医学部に入学を決めているのが現状で、その数は二千名弱と考えられ、母校医学部の新入生の変化や応募者数の減少の一因となっております。今回の大学設置基準の改正を受ける形で優秀な学生を早期に獲得するために急遽推薦入学選抜のトライアルを行うことを決定すると同時に他に先んじて入学前教育を主体的に行うための高大接続センターを設置しました。令和六年度入試からは本格的に推薦入試を行うこととなります。

②教育研究実施組織について、先に述べました大学統合に際して本学が採りました機構センター等が極めて近似なものと考えられます。

③学生厚生補導組織の設置に関しても大学統合にともない本学が設置した学生生活支援機構がそれに相当するものでこの機構には保健管理室も含まれており、成



年年令の引き下げを念頭に生活のみならず心身の健康を含めた学生の人間形成の支援を行う態勢を執っています。

④基幹教員とは、従来の専任教員と、非常勤講師のうちで教授会や教育センター会議等に参画し、主要授業科目あるいは年間8単位以上の科目を担当する教員のことで常勤、非常勤を問わないとのこと。母校医学部では平成9年に医学進学課程を廃止して以来、徐々に進めていたカリキュラムの構成の変更を初等中等教育における教養教育の充実を受けて教養科目の一部として自由科目を置けばか専門科目内教養教育を採り入れ、大幅に見直しをしているところです。また、チューデントドクター制を推進するための教員を再配置しなければならないものと考えています。

⑤講義、演習、実習の区分について
初等中等教育における能動的学習が行き渡り、高等教育においても能動的学修をより積極的に行うため、講義、演習、実習を組み合わせた方法が主流になっています。今回の改正によって、既に母校医学部で採り入れている様々な学修方法を組み合わせた科目を正式に採用することができるようになりました。

⑥空地について、大学キャンパスには空地と呼ばれる学生の憩いの場を置いていましたが、単に学生の憩いの場とするだけでなく、学生同志あるいは学生と教員や事務職員が交流する場を設けることが求められます。本学各キャンパスには既に設置されている空地を活用して交流の場とすることになります。母校医学部においては新講義実習棟の8階に学生のラウンジがありますので、その一角に国際交流センターを移設し、学生や教員・事務職員の交流に加えて留学生も参加できる国際的視野に立った空地を形成いたします。



⑦運動施設の設置義務の緩和に関しては、学生の知育・徳育に加え、体育を行う上で重要なもので将来的に薬学部の移転を考える際に検討する必要があると

考えています。

⑧図書館の情報センター化について、母校医学部の本部図書館では書籍や雑誌のデジタル化に対応して書架を削減し、スペースマネジメントを行いました。いかにDXが進もうとも対面での情報交換も重要であると認識し、図書館内の書架を取り除き、通常のQuiet floorとは別にActive floorを設け、Society5.0における新しい時代の学術情報センターについてトライアルを実施しています。



以上のような大学の変化は、初等中等教育の改革が進み、その教育を受けた生徒を高等教育機関である大学に受け入れるために必要なものであると考えています。母校医学部は、秀でた研究を行いつつ、新しい時代に向けて変化成長しておりますので、仁泉会の皆様におかれましては、本年も御理解・御支援のほどよろしく重ねてお願いいたします。

新年のご挨拶

東日本支部長

中嶋秀人（学37期）

仁泉会の皆様、新年あけましておめでとうございます。会員の先生方には健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年、東日本支部長を前任の酒谷 薫先生より引き継ぎさせていただきました。簡単に自己紹介をさせていただきます。私は1988年に大阪医科大学を卒業し、大阪医科大学第一内科に入局して内科医また神経内科医として診療・研究に従事してまいりました。2018年4月に日本大学医学部神経内科に赴任し、2019年より同教室教授として、診療・研究・教育に励んでおります。実のところ3年以上に渡るコロナ禍による自粛生活と移動制限のため、東日本支部のほとんどの先生方に直接にお会いすることができておらず、大変申し訳なく思っております。新副支部長の井利雅信（学37期）と協力して仁泉会東日本支部の発展に努力する所存でございますので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症パンデミックも3年を過ぎ、私も医療者は様々な困難に直面しながら医療に従事してまいりましたし、医学部学生の教育現場でもオンライン授業が定着する一方で、感染対策に奮闘しながら臨床実習も行って来ました。この先、新型コロナウイルス感染症による影響については予想がつかないところもありますが、行動制限は徐々に緩和され、2022年秋には現地開催を行う学会も増えており、感染者の増減を繰り返しながらもコロナ前のような活気が戻りつつある状況も伺えます。世界を翻弄し私共現役世代では経験をしたことがないパンデミックですが、この間に様々な医学の進歩を目の当たりにしてきました。2020年当初はマスク・手洗い、緊急事態宣言（海外はロックダウン）、3密の回避が主流でしたが、2021年2月に始まったmRNAワクチンは新型コロナウイルス感染症により初めて実用化したmRNA医薬になりました。また治療薬として、中和抗体薬、経口抗ウイルス薬も次々に開発され、デキサメサゾンや抗IL-6抗体製剤など免疫療法を併用することで死亡または重症になる患者の割合は格段に減少しました。このようなワクチンや新規治療薬による医療の進歩もあって、2022年11月にはサッカーワールドカップが盛り上がり、行動制限のない年末年始を迎えることができるようになりました。しかし一方で、どんな専門家であっ

ても予想は当たらないともわかりましたし、死亡・重症患者割合が減少しても、全体の感染者数が増えると医療現場が逼迫するのは変わりなさそうです。先日の報道でも、第8波の広がりの中、2022年だけでコロナの死亡者が3万人を越えたことが報道されていました。新型コロナウイルス感染症で直接亡くならなくても、それが引き金となり持病や併発症の悪化、いわゆる過剰死亡がそれ以上の数に上ることが想像されます。また、感染者の4分の1は long COVIDと言われる種々な後遺症に悩まされます。まだまだ医療現場では奮闘が続きそうですし、いろいろな課題がさらに出てくるのではないかと思います。とんでもない病気だと実感しますが、困難を乗り越えられるよう励みたいと存じます。

末筆ながら皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

新春のご挨拶（北摂の^{まなびや}学舎）

長野県支部長

高島俊夫（学21期）

仁泉会の皆様明けましておめでとうございます。3年間続いている新型コロナウイルス感染症流行に対する政府の無知で軟弱な政策は、我々の日常診療や経営、又社会活動に大いなる悪影響を与えています。

仁泉会の皆様におかれましては非常にご苦労されていると推察致します。

さて私は大阪医科大学入学以来、昭和62年故郷長野県松本市で小児科医院を開業するまで20年以上高槻市に在住し、学生時代は野球部活動に明け暮れ、卒業後は大阪医科大学小児科学教室で小児科学の基礎、特に感染症学を叩き込まれたのを皮切りに済生会茨木病院小児科、北摂総合病院小児科と正に北摂地区の病院に勤務していました。

小児科学教室の先輩である学18期の小松紀子先生（今治市）が、私の恩師故西村忠史教授の退官の時に発行された「西村忠史教授退任記念誌」（大阪医科大学小児科学教室同門会編）に西村教授の「北摂の^{まなびや}学舎」という言葉を紹介し「北摂の学舎、大阪医大の卒業生にとって何と懐かしい言葉でしょう

か」と書かれています。

私も「北撰の学舎」は心の故郷であり、大切な言葉となっています。

さて2020年発行の大阪医科大学仁泉会名簿の開業・勤務先別索引（685頁、長野県）によると長野県在住の仁泉会員は16名となっています。

ただ残念なことに学10期の池上寿彦先生が令和4年1月9日に逝去され現在の長野県仁泉会員は15名と少数数です。

皆様御存知のように長野県は日本でも有数な広大な面積を有する山岳県であり交通の便は良くありません。特に南北は200kmと遠距離です。

北の長野市から東京は1時間少しで行けるのに南の飯田市からは数時間かかるという状況です。

このような地理的な環境に加え御高齢の先生もおられ仁泉会長長野県支部として気軽に全員が顔を揃えることは非常に難しい状況です。

そこで現在は数年前に入れていただいた仁泉会東日本支部大会に出席されている先生もおられます。

ところで仁泉会員は人数は少なくとも医師会活動には積極的に参加している先生が多く学29期野邑敏夫先生が長野県医師会副会長、学14期宮澤健先生が長野県医師会裁定委員として活躍されていますし、学21期高島俊夫が長野県医師会参与、松本市医師会顧問を務めています。各々の郡市医師会でも仁泉会員が活躍されています。

末筆になりましたが、仁泉会の皆様の益々の御活躍、御健康をお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

新春のご挨拶

静岡県支部長

吹田浩之（学36期）

新年、明けましておめでとうございます。新型コロナウイルスが弱毒化してパンデミックが終息に向かっていることに喜びを感じております。最近の患者さんは症状が軽微で重篤化することがなくなりました。早く旧型コロナウイルスと同じ扱いになる日を心待ちにしています。とはいえ、臨床現場でご活躍の先生方は、お忙しい日々を送っていることと推察いたします。我々医療従事者の健康が患者さんにとって最も重要です。休息をしっかりとして無理のない範囲で頑張っていきたいと思ひます。

静岡県支部の皆様、昨年も支部総会が開催でき喜んでました。今年度は開催を目指して頑張ります。ご協力をよろしくお願いいたします。

昨年、静岡県はリニア中央新幹線の工事に関連して注目を浴びました。わが静岡県が開設の邪魔する悪者になっていないか心配です。大井川流域では河川の水減少を心配していますが、静岡市の安倍川は影響がないので静かです。早期に円満解決されて、前進することを願っております。

静岡市は台風の直撃が少ない土地です。それた台風が伊豆半島に上陸することが多く、古くは狩野川台風などが有名です。霊峰富士が後ろで守ってくれているおかげと信じています。しかし、昨年の秋分の日の大雨には本当に驚きました。台風は太平洋を移動しているのに夜半より激しい雨粒が矢のごとく降り始めました。休日を利用してコロナワクチンを500人に接種してのんびりと夜を過ごしていたところ、2:00に突如停電が発生しました。真っ暗闇の中でトイレの水を流すと床に溢れてしまい、あたふたして朝を迎えました。信号は消えていましたが、患者さんはばらばらと来院されました。ソーラーパネルの電力でコンピューター2台が動き、簡単な診察と手書き処方箋を書き、薬局の努力もあり、診察をこなしました。冷蔵庫に残ったコロナワクチン2バイアルは廃棄の憂き目にあいました。前日にワクチン接種を頑張った良かったと神に感謝しました。停電に対する備えが不十分だったことに反省しきりです。小さなクリニックでは自家発電は難しく、設置型バッテリーは価格が高いので、リーフのような電気自動車も最も効率の良いバッテリーです。検討する価値があります。私はトヨタのbZ4Xを注文しました。

今年にはコロナ禍も大災害もない平和で楽しい年になりますように祈念しながら筆をおきます。

2023 年頭・雑感

岐阜県支部長

小嶋昭次郎（学29期）

新年明けましておめでとうございます。旧年中はいろいろお世話になり有難うございました。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、振り返れば昨年もコロナで始まり、コロナで終わった一年だったように思います。自院で通常診療のほかに発熱外来とワクチン接種を行い、学校医として生徒のP

CR集団検査に向き、老人施設入所者に対してと、行政が行う一般市民に対してのワクチン集団接種に出務するなど、COVID-19に振り回された日常でした。感染の波が少し落ち着くと経済活動を活発化する。すると、やがて次の波がやってくる。この繰り返して、年末には第8波が頭をもたげ始めていました。昨年の11月には、塩野義製薬の新型コロナウイルス感染症に対する経口薬『ゾコーバ』が緊急承認されましたが、劇的な症状の改善効果は期待できず、高血圧症や脂質異常症の薬など併用できない薬が36種類あるということで、インフルエンザにおけるタミフルやリレンザのように簡易で十分な効果が期待できる経口薬が一般臨床の場で投薬できるようになるまでは、今年もウイルスとの戦いは続くでしょう。

そんな暗い話題ばかり続く中で、昨年9月に当支部会員の松橋延壽先生（学45）岐阜大学の消化器外科の教授に就任されるという快挙とも言える嬉しいニュースが飛び込んで来て、私たちも明るい、そして誇らしい気持ちにさせて頂きました。早速、お祝の食事会（11月13日、岐阜市『ル シノワ かわで』にて）を企画しましたところ、10名（上村博幸【学22】、小木曾和夫【学25】、赤尾幸博【学27】、渡辺 寛【学27】、西尾公利【学43】、操 裕【学45】、森下めぐみ【学53】、荒木みどり【学60】、小嶋昭次郎、小嶋範子【学29】）の参加を得ました。コロナ禍の中、このような人数での会食は久々で、黙食することを忘れ大いに盛り上がるひと時を過ごすことが出来ました。日々の診療を一生懸命に頑張り疲れを感じている状況であったゆえ、このひと時の楽しさが倍増したのかもしれない。今年もまた、会員の皆さんから明るい便りが届くことを期待致すと同時に、今年には支部総会を開催し多くの会員の皆さんとお会い出来ることを望んでいます。

卒後43年目を迎え少しずつ衰えを感じ始めては来ましたが、新型コロナウイルスと共生（withコロナ）するのではなく対峙（againstコロナ）するという意気込みで日常臨床に更に奮励していくことを年頭の決意としたいと思います。

赤尾幸博先生の記事は「新聞切抜」36頁で紹介しております。

謹賀新年

仁泉会大阪府支部連合会 会長

霜野良一（学28期）

新年あけましておめでとうございます。

コロナ感染は続いており、第8波といわれて終息の気配がありません。この冬は2年間ほとんど発生していなかったインフルエンザが流行するとのことであり、各先生方も心身ともにお疲れの出ないよう祈っております。

大阪府連の活動も3年前より2年間はほぼ休止状態でしたが、昨年は定期理事会（2ヶ月に1度）を開催しており、昨年5月には支部長会も開催いたしました。そして11月には、3年ぶりとなる学術講演会をホテルグランヴィアにて開き、本学 内科学Ⅲ・循環器内科の星賀正明教授に大変お忙しい中、講演して頂きました。ハイブリッド方式で行いましたが、会場には26名、web参加25名と思ったより多くの先生方に視聴して頂き感謝しております。ただ残念だったのは、懇親会を行えなかったことです。

昨年の理事会での一番の議題は、大阪府連の存在を知らない先生方、特に若い先生方が多いため、その周知が必要であるとのことでした。コロナ禍の前は私も何度か支部総会・懇親会に招かれて、府連のお話をさせて頂きましたが、最近は支部会も殆ど開催されておらず、周知できない状態です。そこで若い理事の先生方を中心に大阪府連のホームページを立ち上げることに致しました。先生方には新規開業や、近況の報告、趣味・エッセイなど何でもかまいませんので投稿して頂き、交流の場にしていきたいと思っていますので、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

私個人としましては、昨夏の猛暑で夏バテを起こし食欲もなく体重が3kgほど減少しましたが、涼しくなっからは体調もほぼ完全に戻りホッとしています。これからは酒量を減らして健康に気をつけていきたいと思っています。

今年も御指導、御鞭撻を賜りますよる、お願い申し上げます。

謹賀新年 —青春ってすごく密なので—

港区支部長

奥村隆司（学 31 期）

新年、明けましておめでとうございます。仁泉会の先生方におかれましては健やかに新しい年をお迎えになった事を謹んでお喜び申し上げます。毎年、流行語大賞というのがあり、20ぐらいの言葉がノミネートされます。その年の世情を表しているのですが、知らないものも結構多いです。流行語という響きから大衆的で何か娯楽性を持ったイメージがありますが、中には「国葬儀」「キーク」「宗教2世」「悪い円安」など問題の多い暗いイメージのものもありました。その中で昨年の夏の高校野球の優勝校の監督が優勝インタビューで「～青春ってすごく密なので～」と言った言葉が、皆の共感を呼びました。全文はコロナ禍のなかで青春を謳歌出来なかった学生達によく頑張ったと褒めたメッセージであります。久しぶりに「青春」という言葉が私の胸にキュンと来ました。それと同時に、学生時代、研修医時代のほろ苦い経験を思い出しました。希望と絶望の狭間でちょっとした出来事でそのベクトルは揺れ動きました。しかし、青臭い気持ちの中でも絶えず上を向いていたし明るい未来を信じていました。新しい事に挑戦する姿は尊いです。私も高齢になりましたが、この気持ちを持ち続けたいと思い返しました。

また、「知らんけど」という言葉もノミネートされました。関西地区ではよく使う言葉であります。なんで今頃だと思いますが最近、関東の若者で流行し全国ネットになっているようです。適当な事を言ったあと「知らんけど」と言えば大抵は許してくれます。漫才文化の大阪気質の言い方かもしれません。無責任な言い方ですが、悪気のある言葉ではなく最後にほんわかさせてくれます。また、真面目な話の後、照れ隠して使うこともあります。便利な魔法の言葉です。

今年は十二支十干では「癸（みずのと）卯（う）」の年であります。卯（うさぎ）のイメージから飛躍、向上、植物の成長という意味があり、新しい事に挑戦するのに最適な年とされています。大阪医科薬科大学も最新設備を導入した病院新本館A棟が完成し、新しい体制のスタートです。「青春」の気持ちを持って新しい事に挑戦し更なる発展する事を期待します。知らんけど。

新春を寿ぎて

阿倍野区支部長

福本敏子（学 24 期）

あけましておめでとうございます。

旧年は新型コロナウイルスに続き、ウクライナ紛争と心痛むニュースが多い年でしたが、明るいニュースもありました。アメリカでは大谷翔平選手の大活躍が話題になり、多くの勇気をいただきました。また、感染対策を講じながら海外旅行もほつほつ復活し、国内旅行や各種イベントも少しずつではありますが楽しめるようになりました。コロナ感染症内服治療薬の国内承認もあり、徐々に元の社会に戻していこうとしています。学会もリアルに会場参加することができるようになり、WEB も便利でしたが、やはり対面で会って話ができる充実感に勝るものはありません。

阿倍野支部は大阪市の南部にあります。病院としては大阪鉄道病院があり、現在、婦人科、精神科、緩和ケア、耳鼻科にトップとして同窓の先生方が活躍されておられます。また、支部会員の先生方が阿倍野区医師会においても理事として執行部に加わり活躍して下さっています。阿倍野支部は高槻市の本学からは遠く離れていますので、日常診療においては仁泉会会員の診診連携、病診連携を心がけています。

どのような状況にあっても 阿倍野支部は今年も、会員相互の親睦を図り、同窓の絆をさらに強化できるように努めてまいります。今後とも、ご指導ご鞭撻いただきますようよろしくお願い申し上げます。

脳神経外科医者の死生観

生野区支部長

村田高穂（学 22 期）

新年おめでとうございます。

2022年7月8日、安全であるはずの日本で、元首相が選挙演説中に暴徒により銃殺されるという驚愕の事件が発生しました。

当初、参議院選挙前の出来事であったことから、政治思想関連の動機が疑われましたが、その後の捜査の過程から、悪質な霊感商法により多くの犠牲者を生み出している「宗教という ベールを被った、エセ宗教集団」

（カルト）と権力を有する政治家たちとの汚れた関係が明らかになりました…

本題に入る前に、私は日本人の平均的な無神論者です。盆や彼岸には両親の墓参りをしますが、そこに両親の霊が在ると思ったことは一度もなく、生前の両親の思い出に浸る時間になっています。

京都に居た頃、8月16日には大文字の送り火をよく観ました。祇園祭と並ぶ京都の夏の風物詩で、「盆を迎えた精霊を送る行事」とされています。若い頃、その神秘的な炎の「大」の文字に心動かされたことを思い出します。

さて、「死生観」とは？

文字通り、「生きることと死ぬことに対する考え方」です。しかし、考えるのは「生きる人」ですから、「生きること」とは「生き様」であり、死期を意識する高齢者にとっては、「死までの有意義な生き方」になるでしょう。一方、「死ぬこと」は、誰しも死んだ経験はありませんので、全ては「生きる人の想像の産物」としての「死」と「死後の世界」に過ぎません。

「生き様」とは？

「自分が元気なときは、自身の最期を考えることなどありませんよね？」

むしろ、自分の目標に向かって充実した明日を見つめているはずですし、「自分らしく生きること」がその人の「生き様」と言えるでしょう。

やがて歳を重ね、「老い」と「病」により介護を受けることになり、死期を考える状態になり、その時になって初めて自身の「生き様」を考えます。この状態での「生き様」は、「死に方」とも言えるでしょう。尊厳死、Living will の問題であり、介護で言えば Advanced Care Planning (ACP) の考え方です。

「死」とは？

死は、生物学的に言えば「肉体の消滅」であり、「無に帰すること」と考えます。

The Beatles の Imagine では、Imagine there're no heaven, It's easy if you try. No hell below us, Above us only sky. Imagine all the people Living for today...

「天国なんてありません。想像してみてください、簡単なことです。私たちの足の下に地獄は無いですし、頭上には空が有るだけです。そして、誰も皆、今日という日を

きているだけなのです…」

冷静に考えれば、誰もが分かることですが、人は多くの場合「生」に未練を残したまま、また「死」に対する恐怖を持ちながら「死」を迎えることになるため、「死後の世界」の存在を希求とするのだと思います。

「死後の世界」とは？

「臨死体験」の多くが一定のストーリーを持つことが知られています。

人の心（精神）が肉体から抜け出ていく現象（幽体離脱）や光り輝くトンネルや美しい花園を見る（天国絵）、向こう岸の見えない大きな川を渡る（三途の川）などです。

「死後の世界」や「この世とあの世の境の存在」について、神父や僧侶の説教に同じような内容を見受けますが、これらは false memory という記憶のメカニズムとして説明されます。実際の記憶 (true memory) ではなく、説教を繰り返し聞くことで、そのことが本当の出来事として記憶されてしまうという現象です。

記憶の解剖生理学的研究から、false memory は、海馬に取り込まれた情報が様々な 刺激 (stress) で活性化し、情動喚起 (trauma) により記憶の保持が強化され記憶固定される結果とされます。そして、これらのメカニズムは、与えられる stress が大きく権威的や支配的なものであるほど、また受ける側の trauma が強い恐怖心や依頼心を伴うほど、強固な false memory として刻まれます。

そして、これらの false memory は、true memory とともに大脳帯状回に蓄えられ、脳のネットワークにおいて協働し辛い記憶は行動を阻害し逃避を促し、楽しい良い記憶はその後に意欲を作り出します (洗脳)。

臨死体験は、強固に蓄えられたこれら true と false の全ての記憶が死ぬ間際に再び蘇ることによって生み出される現象と考えられています。「生まれてから死ぬまでの記憶が走馬灯のように蘇り、「幸せなときであった」と臨死体験を語った人がいました。

臨死体験は、大脳辺縁系を形成するこれらの小さな脳たちが短時間に激しく活動して見せる、様々な記憶による人生舞台のフィナーレなのです。

いずれにせよ、この大脳辺縁系の粋な計らいにより、蓄えられていた記憶たちが蘇るのであれば、臨死は実に愉快な体験になるかも知れません。

死ぬ時まで残された「生きる時間」、楽しい記憶をたくさん残して、愉快的臨死を迎えたいものです。

2022年10月

コロナ禍をpositiveに

住吉住之江区支部長

濱崎憲夫（学 42 期）

〒605-0855 住吉区住吉南1-1-10

電話 06-6641-1111 携帯 090-4562-1111

新年あけましておめでとうございます。
仁泉会員の皆様には、爽やかな新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年末にはウイズコロナの時代に入ったといわれながらも、医療関係者にとってはまだまだ厳しい状態です。もし感染してしまえばリモート業務以外の外来診察は休業せねばならず、大人数での飲食歓談が主になる支部総会の開催は自分を含めて開業されておられる先生方が多くおられるため躊躇しておりました。支部の諸先生方とも御連絡がおろそかになってしまい大変申し訳なく思っております。

僕自身も仕事に影響は出ないまでもコロナ禍において、唯一ストレス解消であった草野球を休まねばならないような体調不良にあい、どうしてもnegativeな思考にとらわれることが多くなっておりました。そんななか学生時代の先輩、後輩、学友とは有り難いもので、どちらともなく連絡をいただいたりして昔話に花を咲かせながら笑いあい励ましあいpositiveな思考になることができました。特に大阪医大ゆかりの方々からの話は終盤には必ず、コロナ禍に対してだけでなくこれからの仕事や人生に対してもpositiveな思考を持たせてくれました。大阪医大の方々皆さんpositive thinkingをもっておられる、これが大阪医大の校風なのかなあと納得し、もしコロナ禍がなければこんなにも学生時代の友と連絡をとる機会もなかったのではないかと僕もpositive thinkingに浸ることができました。

またコロナ第6波のなかで、楽しみにしていた草野球も中止になり、体調不良も重なり家で悶々としていた僕に妻が”治る病気やからええやんか。久しぶりにキャッチボールの相手になろうか”とこれもpositiveな、新婚時以来のやさしい声をかけてくれ、驚き（笑）と感謝の気持ちが湧きあがったことがありました。妻、家族の優しさにもやはりコロナ禍がなければそれに僕は気づかないままに過ごしていただろうと、これもpositive thinkingのひとつとなりました。妻もpositive thinking集団の大阪医大後輩です。

母校がこのような素晴らしい校風を持つ大阪医大であること、また自分もその一人であることに日々感謝と誇りをもって過ごしております。今年は全てのことに対してposi-

tive thinkingをもって立ち向かうつもりです。

末尾ながら新年を迎えまして益々の大阪医科薬科大学のご発展、そして仁泉会と会員の皆様のご多幸を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

謹賀新年

東大阪市支部長

大西洋一郎（学 25 期）

〒594-8686 東大阪市東大寺1-1-1

90名以上いた支部会員が22名となり、毎夏京都への小旅行も、最後に布施の料亭で幕となり、会費も3,000円から2,000円に下げ、香典10万円を中止することになりました。しばらくは新年会総会のみとはなりますが、適宜親睦を深められるように努力していきたいと考えています。

2023年4月からデジタル化が医療分野でも取り入れられて、結局経営は困難になっていくと思われます。ビットコイン、イーサリアム、デジタル人民元、みなデジタル通貨である。でも、どれも信用がない。ビットコイン、イーサリアムは株価は高く乱高下している。デジタル人民元は実証実験を通じて特許をつみ重ねているであろうが。もちろん人民元に?がつく通貨であるので…。でも世界は日本は利便性を求める。利便性に最終的に勝つデジタル通貨を日本も持つチャンスはあるが??

さて、人生100年時代である。と言うことは最終では、男も女もお一人様生活である。イコカかピタパを手に入れる。JRか阪急に乗り、適当な所で降りてみる。松屋がある。イコカで注文してみる。食してみる。またいつか松屋に入ってみる。スマホを持っているので、スマホでの注文の仕方を店員に聞いて教わってみる。次の駅では快活CLUBがある。5階から入ってデジタル機器の前で悪戦苦闘してみる。分からないので店員に聞いてみる。次にピソラという店がある。スマホのみで注文を受け付けてくれる。現金決済だったが、お一人様生活するには電子マネーはキモになる。何回か使っていれば分かるようになってくるので、歩けるうちにいろいろやってみる。松原千恵子の一人で歩くのが好きと言う生活である。

新年のご挨拶

高槻市支部長

保田 浩（学 31 期）

〒595-8585 高槻市高槻1-1-1

仁泉会の皆様、新年あけましておめでとうございます。昨年もコロナに始まり、コロナで終わる1年間でした。年明けよりオミクロン株の感染者が増加、1月中旬からは小児を中心に感染が拡大しました。当院小児科であるため、電話は鳴りやまず、突撃受診など外来診察はパンク状態になりながらも、コツコツ検査して診断していきました。コロナ診断・診察の保険の点数なども急遽発表され、これまた請求で混乱しました。

2月からは3回目のワクチンも始まり、これも黙々と接種してゆきました。春にはやや取まったかに思えましたが、7月連休明けよりまたまた小児を中心にオミクロン株 BA5が猛威を振るい、外来はパンク状態に再びなりました。今は、これから始まるコロナとインフルエンザの同時感染に備えて粛々と準備して、体力を温存しております。

さて、仁泉会高槻支部におきましては、小康状態であった6月に高槻駅前に新しくできたホテルアベストグランデ高槻にて総会と講演を執り行いました。3年振りに会員が顔を合わすことができました。佐野学長、内山医学部長、南病院長も来られ、大学の近況、国家試験合格状況、病院新本館A棟の概要などを説明していただきました。講演もずっと3年間お願いし続けていた脳神経外科学教室の鰐淵昌彦教授にいただきました。今年度は6月17日土曜日にホテルアベストグランデ高槻で開催予定です。講演は眼科学教室の喜田照代教授にお願いしております。懇親会もできることを切に願っております。

では、今年が仁泉会の皆様にとって日常に戻る年でありますようにお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

新春の御挨拶～京都仁泉会の2022年度活動報告

京都仁泉会 会長

河野龍而（学 35 期）

〒600-8585 京都市中京区西ノ京1-1-1

仁泉会会員の皆様、明けましておめでとうございます。私は、1986年に大阪医科大学を卒業（学35期）し

第3内科に入局。京都市伏見区出身の故弘田雄三先生に御紹介頂き30年前より蘇生会総合病院で非常勤務をしておりましたが、10年前に大阪医科大学より常勤医として赴任。その際に京都仁泉会に入会させて頂きました。この度、2022年5月に開催された京都仁泉会総会において、故松本恒司先生の後を受け第15代の京都仁泉会会長を拝命致しました。

大阪医科大学仁泉会は大阪医科大学医学部の卒業生や大阪医科大学在職者を会員とする同窓会組織です。仁泉会の名称は大阪医科大学の学歌の第2節「仁の泉か朝に夜に」が由来です。会員数は5,866名（2022年7月）で全国に支部や親睦会があり、卒業後も同窓の絆を大切にすることで、情報交換を密にして日々の医療活動の助けになるよう活動しています。西日本で最も歴史のある医科大学の同窓会の京都支部の会長の大役に身の引き締まる思いでございます。

大阪医科大学仁泉会法人の目的は1。医学知識の研鑽普及を行うとともに、大阪医科大学とその附属病院における医学の教育・研究及び学術交流の振興を助成する。2。会員相互の親睦を図り、もって医学の教育・研究の発展向上及び学術の発展に寄与することです。この理念に基づいて、京都支部は1。医学知識普及のための研究会及び講演会の開催、2。会員相互の親睦を図るため音楽の夕べの開催、などの活動を行なって参りました。また、京都仁泉会では年1回の会報発行も行なっております。会報は会員なら誰でも気楽に投稿でき、社会的な「貢献」の高い課題の提案、クラス会の紹介や予告、経営のノウハウ、事業承継、新規開業報告や会員の新聞記事等に利用頂いております。

また、京都仁泉会では会員相互の扶助も重要だと考えています。人は、それぞれ固有の「ベクトル」を持って人生を生きているため、他者と完全に分かり合えることはありません。しかし、人間は社会的動物であり、決して一人では生きることにはできません。人生は山と谷の連続です。新型コロナウイルス感染症の流行は、世の中の価値観を大きく変えましたが、世界がガラリと変わる出来事は今後も起こると思われます。また、医師としての仕事に従事しておりますと、なんともし難い困難に見舞われることも多々ございます。そんな折に、利害関係のない信頼できる同志との交流は非常に大切になります。人間にはコミュニティが必要です。ホンネで話せて、悩んだり喜んだりできるような濃密な関係性です。人は情動で動く生き物ですから、自分を受け入れてくれる居場所が必要です。ちょっとした会話の中のヒントや、人を紹介

したり、されたりすることで助かることや、共に協力して「ベクトル」合わせをすることによりシナジー効果が生まれ課題が解決することもあります。

私にとって信頼できる先輩の一人が今年98歳になりました元外務大臣の中山太郎先生（高医第21期）です。議員活動の合間に、大阪医科大学小児科勤務時代に同科を担当していた故勢川瑠美子元看護部長を訪ねて大阪医科大学に来られた際にお会いして以来、約25年主治医をさせて頂きました。故勢川瑠美子元看護部長の宿願であった看護学部の設立や外務大臣であった見地より国際交流の場である中山国際医学医療交流センターの設立を提言されるなど大阪医科薬科大学の発展に貢献されて来たことは周知の通りです。国会議員であった御両親の意志を継いで衆議院議員になられたことや、選挙区のことだけでなく天下国家の事を考え、医師の資格を持った議員でしか出来ない臓器移植法案の成立に尽力されたことなど色々話を頂きました。野党の議員の意見も真摯に受け止め、決して敵を作らず、これからの日本を支えていく大学生など若い人々との交流も大事にされていました。外務大臣の時に湾岸戦争があり、日本の貢献が世界的に評価されなかったことで、憲法改正の必要性を痛感されたとのこと。政治家生命をかけて取り組まれた憲法改正に対する思いは今も忘れておられません。私にも家族のように接して頂き、衆議院選挙の時には選挙カーに同乗し選挙区を回り、応援に駆けつけられた自民党幹部の方ともお会いし、医学以外の多くのお話を聞かせて頂くなど貴重な体験をさせて頂きました。私が京都仁泉会で講演をさせて頂いた時には、特別ゲストとして堺から駆けつけてくださいました。今後も、中山太郎先生の立ち振る舞いを見習い、京都仁泉会の会員相互の扶助に努めたいと思っております。

現在、大学入学者における近畿圏出身者の比率は、90%に近い状態です。この傾向は、今後も続くと思われ、京都仁泉会の役割は増えてくると考えられます。京都仁泉会の役員の方には、診療に加え、地元の医師会の会長、理事や役員など多忙を極めておられる中、会の運営に御理解、御協力をして頂き、今回、新しく3名の若手の先生方にも役員に加わって頂きました。これを機会に若い先生方にもどんどん活動に参加して頂き京都仁泉会のネットワークをより強固に出来ればと考えております。

COVID-19感染拡大のため2年間京都仁泉会の活動も自粛し、総会も開かれていませんでしたが、COVID

-19感染の流行が谷の時期であった2022年5月14日にホテルオークラ京都にて京都仁泉会総会並びに講演会を完全対面形式で実施することができました。詳細は2022年7月1日発行の大阪医科薬科大学仁泉会ニュースにもご報告させて頂きましたが、蘇生会総合病院の腎臓内科部長・血液浄化センター副部長の松田拓久先生（学50期）に「腎臓専門医が着目した日常診療における腎臓病の管理」という演題で御講演を賜り、30名の会員が参加、感染対策をとった上で懇親会も実施できました。その際には、昨年度文部科学大臣表彰を受けられた上原正先生（学14期）、春の叙勲で旭日双光章を受けられた上原春男先生（学21期）に花束を贈呈しお祝いをさせて頂くこともできました。また、勘田絏一先生（学15期）も瑞宝双光章を、昨年には大藪博先生（学22期）が日本医師会最高優功賞を受賞されています。お陰様でCOVID-19感染者を出すことなく会を終えられ安堵しました。8月に開催予定の「音楽の夕べ」は40名の方から参加のお返事を頂きましたが、COVID-19感染第7波のピーク時で京都府医師会会長の通知も考慮して開催を断念しました。2022年11月19日には京都仁泉会学術講演会をハイブリッド形式で開催させて頂きました。大阪医科薬科大学 腎臓内科教授（特別職務担当教員）の美馬晶先生に「腎症を合併した2型糖尿病治療を再考する～イメグリミンの可能性について考える」という演題で大阪医科薬科大学 一般・消化器外科教授の李相雄先生に「胃がん外科治療を通して」という演題で御講演を賜りました。29名の会員が会場参加、5名がオンラインで参加されました。医学知識の研鑽はオンライン形式の講演会でも可能ですが、会員相互の親睦を図るためには対面での総会・講演会が望ましいと思われ、現地参加が無理な会員もおられハイブリッド形式も必要かと考えております。

COVID-19感染の感染状況や社会状況を踏まえた上で、感染対策を十分に取れば対面での会の開催は可能であると思われ、現地参加が無理な会員もおられハイブリッド形式での開催も必要と判断し、来年度も同様の対応をとっていきたくと考えております。

最後に、仁泉会のさらなる発展と皆様のご健康とご多幸を祈願し、私の新春のご挨拶とさせていただきます。

古稀を迎えて

川西支部長

土肥恒夫（学 28 期）

新年明けましておめでとうございます。

古稀を迎えて改めて長寿について考えてみました。

長寿を祝うこと（賀寿）は、奈良時代に中国から伝わっていたらしく、「古今集」によると平安時代には賀寿の初めとして40歳を初老として以後10年ごとにお祝いするそうです。現代のように60歳から還暦祝いのはじめとして以後古稀、傘寿、米寿、卒寿、白寿、百寿、茶寿、大還暦と続くような祝い事は、江戸時代には庶民にまで定着したようです。昨年来、話題のあのプーチンも私とおなじ年で、報道によりますと例年届く祝電やアイスクリームのお祝い品がなかったそうです。

古稀とは、唐時代の杜甫の詩の一説「人生70年古来稀なり」という言葉に由来するそうです。1000年以上の前なら平均寿命は恐らく50年に届いていないだろうから70歳をこえるのは古来稀といっても不思議ではありません。私が生まれた頃の1950年の簡易生命表によると平均寿命は男性55.0歳、女性61.5歳です。それが、2020年の簡易生命表では男性が81.6歳、女性が87.7歳となり、前年より更に男性0.23歳、女性0.29歳延びています。わずか70年間で寿命が約26年も伸びたこととなります。こうなると長寿を祝われる人が多すぎて、長寿を祝うということがあまり意味をもたなくなるとおもいます。私の周りでも古稀だ、米寿だと嬉しそうに話をする人を見かけなくなりました。

それよりも自分自身の経験から、前期高齢者、後期高齢者の区分けのほうがなんだか得心が行くような気がしています。前期高齢者とは65歳から74歳、後期高齢者とは75歳以上と厚生労働省が健康保険制度を維持させるために区分けしたので、長寿のお祝いのためではありません。

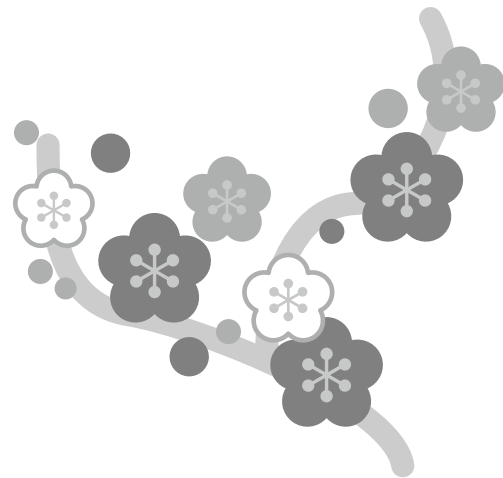
古稀、還暦とは異なり健康保険制度を破綻させないための単なる区分けにすぎないのですが、保険証が変わった75歳から、がんや手術を必要とする病気をしたと嘆かれる超高齢者が意外と多くいらっしゃいます。自分自身の経験からも65歳を過ぎてから、急に大きな病気に見舞われるようになりました。以前から患っていた脊柱管狭窄症が増悪して、下肢の疼痛と麻痺のためゴルフどころでなくなり、グロスでボーリングのスコアかと見間違えるほどでした。3年前の66歳時には心筋梗塞で2本のステント

が入り、脳出血の跡も見つかり、腎不全などがわかり9種類の内服薬（今は5種類）を服用しています。わたしの個人の経験ですが、前期、後期高齢者との分類も捨てたものではないと感じています。

これを裏付ける資料があります。厚生労働省から毎年国民医療費が発表されています。2017年度国民医療費を読み解くと15～45歳の国民一人が平均12.3万円の医療費を使いました。45～64歳では28.2万円、65～74歳では73.8万円、75歳以上になると92.2万円の医療費を1年間でそれぞれ使っています。前期高齢者の25%増しの医療費を後期高齢者が使っている事になります。

日経新聞によりますと、2036年には高齢者が人口の3割に達するとのこと。もうすぐのことではないですか。私の子や孫に負担をかけないよう健康を維持することに努めています。例えば、通勤に電車を使い、毎日7000歩歩き、ゴルフは週2回クラブを振り、食事は脂肪を取りすぎないようにしています。2019年の健康寿命は男72.7歳、女75.4歳ですから、平均寿命との差が約10年余りあります。仁泉会の皆様も釈迦に説法かもしれませんが、他人にお世話にならないよう健康寿命を延ばす努力していきましょう。

健康寿命：助けなしで自力で日常生活を送れる期間



新春のご挨拶

鳥根県支部長

林 孝乾（学 30 期）

私は鳥根県出雲市で整形外科の有床診療所を経営しており、年間200件程度の手術を脊椎外科中心に行っています。手術の方は順調で、おかげさまで手術待ち3ヶ月となっております。2017年からは、日本臨床整形外科学会の有床診療所部会の部会長をしています。

3年前に前任の中島先生から仁泉会の鳥根県の支部長を引き継ぎましたが、その途端にコロナで全く活動ができていません。10月の下旬に少しましになってきたかと考えていたところ、11月中旬になってまたコロナ患者が増加してきて、診療、さまざまな会合、学会に支障が出てきつつあります。こんな中、鳥根県の仁泉会の総会を開くわけにも行かず、苦慮しています。

さてそんな中、9月9日、当院内で突然クラスターが発生してしまいました。患者、理学療法士、看護師と、それまでもいろいろな患者は濃厚接触者を何度も抗原検査をしても陽性など見たことがありませんでしたが、検査する人検査する人どんどん陽性判定が出るのです。そして、整形外科の有床診療所であるはずが、一時的にコロナ専門の有床診療所になってしまいました。

スペイン風邪は3年で治まったとのことですが、コロナは3年経ちますが治まりそうにありません。インフルエンザとの違いはその強い感染力です。しかも、ワクチンを打っても次々に変異してそれをかいくぐっていきます。まるで知能があるようです。

今後コロナが続くとすると、われわれはそれに対応するしかないでしょう。この場合ワクチンはインフルエンザのワクチンと同様、重症化を防ぐ程度で、あとは新しい抗ウイルス薬に期待するほかはありません。

さて、コロナで暗い話ばかりで、コロナ禍は日本全体でも世界全体でも大変な災難ですが、何か多少なりとも良かったことはないかと考えてみると、集団的個別指導が無かったこと、有床診療所に対する保健所の監査がないことなどですが、集団的個別指導は今年再開され、患者単価が高い事による個別指導常連の当院はすでに呼ばれました。保健所の監査もいずれ再開されるでしょう。それにしても、高単価で個別指導というのは、厚生局としては医者は患者さんに対し、正しい治療をするなという事でしょうかね。

これに対し、今後も続くであろう良かったことはリモート

会議、オンライン学会、ハイブリッド学会の出現です。開業医は遠方に出掛けにくいので、リモート会議、ハイブリッド学会は助かります。いまや私もZoomを使いこなすようになりました。本年度の仁泉会総会もZoomで参加しました。また社会全体も、医療に対して、その重要性を再認識したのではないのでしょうか？日本医師会もこれまではあまり目立ちませんでしたが、定期的に正しい提言をすることにより、国民にアピールすることができるのではと考えています。

先程述べたように、コロナは治まりそうにありません。皆様もコロナは大変な災難だと思いますが、なにかそれによって仕組みや何かが改善したことがあれば、それに目をむけて、それを伸ばしていくといいのではと考えています。

謹賀新年

愛媛県支部長

井関亮甫（学 23 期）

仁泉会の皆様、明けましておめでとございます。令和四年十一月十九日（土）18時30分より例年どおり、料亭「いづみ」にてふぐ料理のフルコースを食べながらの支部総会を開催致しました。横山剛先生（学15期）長井新一郎先生（学18期）もコロナの影響で欠席、佐々木淳子先生（学44期）は、ご都合が合わず欠席、今年度も大学からの来賓は無しとし、参加者も六名と少々寂しい会となりました。唯、熊野宏二先生（学39期）が、大阪から帰省され初参加となり話が盛り上がりました。今年も年初からコロナ禍一色で開業医の先生方もいくばくかの影響ありとの話もされていました。フグのヒレ酒を飲みながらの約2時間の楽しいひと時を過ごし来年の再会を約して、お開きとなりました。

出席者は次の諸先生方6名です。



（写真参照）井関亮甫（学23期）佐藤晴瑞先生（学28期）本田光俊先生（学31期）熊野宏二先生（学39期）徳永勝先生（学43期）細田欣也先生（学44期）

「地域で安心して暮らせる精神保健医療福祉体制の実現に向けた検討会」の報告書について

長崎県支部長

西脇健三郎（学 21 期）

★1966年に出版された「アルコール中毒」の副題は「社会的人間としての病気」となっている。因みに著者は精神科医、作家のなだいなだ。

そして56年の時を経て2022年6月9日、精神保健福祉に係る25団体の有識者の方々によって取りまとめられた「地域で安心して暮らせる精神保健医療福祉体制の実現に向けた検討会」報告書が厚生労働省より発表された。

冒頭に「新型コロナウイルス感染症の影響により～不安を感じており、メンタルヘルスの不調や精神疾患は、誰もが経験しうる身近な疾患…」とある。そしてその対象を「精神障害を有する方」と「精神保健（メンタルヘルス）上の課題を抱えた方」（以下、「…抱えた方」）に区分している。ただこの報告書「…抱えた方」について、ほぼふれてはいない。

だが、冒頭の「新型コロナウイルス感染症の影響により～不安～、メンタルヘルスの不調～」の対象は概ね「…抱えた方」のはずなのだが…？

そして「…抱えた方」とは、半世紀以上前に一精神科医が提唱していた「社会的人間としての病気」と同じではと、いった気が私はする。

★長い検討会の名称が気になって仕方がない。とくに、「安心」と「体制」との組み合わせだ。私はこれまで「体制」については、「安全管理体制」、「安全保障体制」などと、「体制」の頭には「安心」より「安全」が付くものだと理解してきた。とくにこの報告書の冒頭には新型コロナウイルス感染症の影響をあげている。日本はゼロコロナ管理体制ではない。今後はウイズコロナだとして、今、権利と義務らしきことのはざまで揺れているのが日本の現状だ。マスクも本来、感染状況をみて個人の判断で着用の有無を判断していいはずだが…。今、政府はマスク着用緩和のルール作りを検討しているみたいだ。何か全てが変な圧力体制に組み込まれそうで、不安で不気味な世相だと私は勝手に思う今日この頃。しかし、そんなルールがあるのが安心だとする方もお

られるだろう。そう、「安心」とは個々個人によって温度差があるものだ。ワクチン接種についても然り、とくに子供の接種に関しては幼い子供を抱える親にとっては悩ましい限りだろう（2022年10月7日現在）。ただ、それは全て任意である。この報告書、百歩譲って「精神障害（統合失調症）を有する方」を意識した報告書であるなら可としよう。だが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けているなどと、様々な社会的ストレスを…すなわち「…抱えた方」も含まれている。よって、私はこの報告書を不可とする。

【余談：不安で不気味な世相について、「第89回NHK全国学校音楽コンクール（小学校の部）」が2022年10月9日開催、NHK-Eテレで生放映していた。合唱の子供たちは全員マスク着用。歌いづらそうなのは観ていてわかる。健気だ！この子らの誰かが人生の何処かで深刻な「…抱えた方」になるのではと、つい気になってしまった。】

★「世界メンタルヘルスデー」、厚生省のホームページに「トップアスリート・ピアサポートなどによる対談が10月10日午前10時YouTubeで配信」とされている。確かにアスリートに限らず、様々な分野で活躍される方のメンタルヘルスは気になるところだ…。スポーツの世界では、1964年東京オリンピックで銅メダルを獲得したマラソンの円谷幸吉のその後、薬物依存症とうつ病との重複障害に向き合っている元プロ野球選手の清原和博、そして元女子マラソン日本代表の摂食障害と病的窃盗などと彼らは氷山の一角、その対策は重要だ。それは「報告書」の区分では、「精神保健（メンタルヘルス）上の課題を抱えた方」（以下、「…抱えた方」）にあたる。ただ、「…抱えた方」は、否認とプライドの問題を抱えており、従来の精神科医療の手法では彼らとの係りは概ね不毛だ。「…抱えた方」の「地域で安心して暮らせる…」はどうするのかな？

ところで、私は不勉強で知らないが「精神障害を有する方」、とくに「統合失調症の方」のパラリンピックの参加枠はどうなっているのだろうか？そうそう、ピアサポートついてだが、私も精神科医の立場でこの仕組み長年活用させていただいている。

日本も多様性を受け入れる社会と言われて久しい。今回の報告書に目を通して、ほぼ一つの固有精神疾患の「安心」…体制実現を意識した内容と私は理解した。今日の精神保健医療福祉領域は疾病構造の変化で、すでに多様化している。報告書、些か時代遅れの感がする。

新春のご挨拶 (卒後50周年を迎えるにあたり)

学部22期評議員
麻田邦夫(学22期)

新年、あけましておめでとうございます。

卒後50年を迎えるにあたり、仁泉会ニュースの投稿依頼を頂き、改めてそんなに年を経たのかと思った次第です。

1973年3月、大学卒業当時は中東戦争の影響による第1次オイルショックをきっかけに、トイレトペーパーや洗剤などが品不足となるうわさが流れ、スーパーなどに客が殺到する騒ぎが勃発していました。

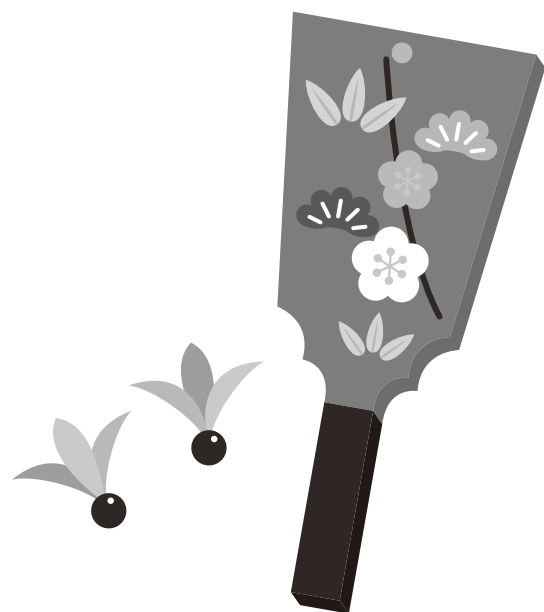
私は卒業後、母校第2外科教室(呼吸器、心臓外科)で2年間の研修を行うことを選びました。研修の頃は大学の教室でも一般外科の症例を受け持つことが可能でしたので、虫垂炎やヘルニア等の手術の技術を学ぶと同時に、呼吸器外科や心臓外科の手術の見学、人工心肺装置の操作技術などの研鑽をしていました。研修が終了した1975年に外科教室が脳外科、胸部外科、一般消化器外科教室に再編成となり、私は胸部外科を専攻することになりました。

当時、循環器疾患領域では、心エコー検査が使われ始め、心臓の動きがリアルタイムに観察出来ることに興味を持ち、外科ではありましたが、心エコー検査係を希望して、その講演会や研修会にも参加していました。手術に携わるために麻酔の経験も必要と考え、母校を離れて神戸大学麻酔科にお世話になりました。大阪医大出身の先輩、椋棒有子、保科晴美両先生には優しく指導して頂きました。勿論神戸大出身の先生方にも術中麻酔だけでなく、術後の呼吸管理についても、厳しいご指導を受けました。

半年後大阪医大に戻り、主に心臓外科を研鑽、更に胸部外科医として、大阪北野病院呼吸器外科、枚方市民病院胸部外科にも出向しました。出向を終えて、大学では心臓の手術や術後管理、外来診察、学生の講義などを担当し、心臓外科医としてそれなりの自信も出来てきていました。2004年に信愛会新生病院(現大阪医科薬科大学三島南病院)に移り、副院長、院長、心臓血管センター長として務めさせて頂きました。

しかし、2009年5月末にクモ膜下出血で倒れ、三島救命救急センターに搬送、脳外科、小畑仁司先生に手術して頂きました。その後、愛仁会リハビリテーション病院にてリハビリを行い、約3か月半の入院生活を経験しました。おかげで何とか回復することが出来ました。翌年新生病院を退職、(医)恵仁会 介護老人保健施設“たんぽぽ”の施設長に就任して現在に至っています。

その間、22期生の総代を仰せつかり、2年半ごとと同窓会を開催しています。前は2018年に京都センチュリーホテルで行いましたが、その後新型コロナウイルスの蔓延の為、令和になってからは開催できていません。今年は卒業後50周年に当たります。令和5年4月8日(土)京都センチュリーホテルで行う予定にしました。詳細はおってご案内させて頂きます。無事に開催出来たらと願っています。



受章受賞報告

令和4年度秋の叙勲・表彰において下記の先生方の受章受賞が判明いたしました。母校として慶事でありますので、ここにご報告させていただきます。

瑞宝小綬章

細井延行先生(学部23期) 保健衛生功労

旭日双光章

田中孝二先生(学部25期) 保健衛生功労

国民健康保険中央会表彰

木村 道先生(学26期)

厚生労働大臣表彰

永田昌敬先生(学30期) 社会保険診療報酬支払基金関係功労者

受章・受賞の際は編集部にお知らせください

各地での喜びの受章・受賞等がございましたら、事務局あてに書面、新聞などをお送り下さい。FAX、メールでのお知らせも歓迎いたします。本誌にて広く紹介させていただきます。 編集係

仁泉会事務局 TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636
e-mail / jimu@jinsenkai.net

支部だより ●●●

令和4年度仁泉会和歌山県支部総会の報告

R4.11.19

於 ホテルアバローム紀の国 和歌山市

文責／湯川裕史（学29期）

仁泉会ニュースに投稿するのは、令和2年1月発刊の第51巻第1号以来です。「令和元年度仁泉会和歌山県支部総会のご報告」で我々和歌山県会員の元気な集合写真をお届けしました。それからコロナが蔓延してきましたから、支部総会もやむなく令和2年度、3年度は中止として今年に至っています。もちろんコロナが終息したわけではなく、むしろ第7波も終わりそうという声もむなく第8波が拡大傾向の中、十分な感染防御を条件に令和4年度の支部総会を開催しました。ただ残念ながら外部講師をお招きしての学術講演会、皆さんが楽しみにしていた懇親会は中止といたしました。今回の支部総会には17名の先生方にご参加いただきました。

総会ではまず田伏俊作支部長（学20期）からのご挨拶で、3年ぶりの総会開催で喜ばしいこと、さらに大阪薬科大学との合併で喜ばしいこと、この春の叙勲でお二人の会員の方が同時に受勲されて非常に喜ばしいことを言われました。ただ、総会を開催できなかったこの3年で3名の会員の方がお亡くなりになったことは非常に残念であったことが報告されました。最後に、全国の仁泉会支部をみますと今の支部長は若い方が多く、和歌山県支部が若返りする意味でも、支部長を退任したい意向を表明されました。

引き続き庶務の村上浩一先生（学32期）のご発声で、お亡くなりになった3名の先生方（岸上清先生（15期）、中田勝次先生（17期）、柳川泰彦先生（学28期））に黙とうを捧げました。それぞれの先生方にはそれぞれにご指導いただき、お世話になり、万感の思いです。

喜ばしいことでは、2名の先生が春の叙勲を受けられました。（古田浩太郎先生（学14期）：瑞宝双光章、西岡昭規先生（学23期）：旭日双光章）お二人同時に同門の方が受勲されたのは、今まではもちろんこれからも無い事と思われ、同門の者として誇らしい慶事です。

議事は湯川裕史（学29期）の議長で進めます。庶務報告は村上先生よりいただきまして、現在の和歌山県の

会員は58名との事です。会計報告は塩崎憲先生（学42期）よりいただきました。来年度の支部総会開催日は11月第2土曜日、特別講演は松谷泰男先生（学37期）より「乳がんについて」、懇親会は一応開催の方向で準備を進めようと、1年後のコロナ終息を祈念しつつ決定されました。次の議事として田伏先生の支部長退任に伴って、支部長・役員交代が議論されまして、支部長に湯川、副支部長に松谷良清先生（学32期）、庶務に村上先生、会計に塩崎先生が選ばれまして、その他役員は下記と決まりました。次に、コロナ前より始めていました旧大阪薬科大学同窓会和歌山県支部（紀薬会）との交流はコロナ禍で立ち消えとなっていましたが、これも復活していくことを申し合わせまして、支部総会の議事を終えました。

コロナ禍前までの例年の支部総会では、議事終了後は、懇親会で盛り上がり、出席の方々の近況報告で盛り上がり、学生時代のエピソードで盛り上がり、学歌斉唱で盛り上がり、写真撮影で盛り上がったところでお開きとなる流れでしたが、残念ながら今年は懇親会はありませんから盛り上がりません。ただ「大阪医科薬科大学学歌」は、田伏先生が録音で流してくれました。これも残念ながら歌える人はいませんし、悲しいかな今後普段から聞く機会もなく、口ずさめる事もなさそうです。

最後は恒例の写真撮影でお開きとなりました。全国の仁泉会のそれぞれの同期の皆様、我々も元気でやっています。

まだまだコロナ禍ですが、ご出席の皆様、県支部会員の皆様のご健康とご活躍を期待して、1年後のこの会でぜひお会いしましょう。

【新役員（敬称略）】

支部長：湯川裕史（学29期）

副支部長：松谷良清（学32期）

会計：塩崎 憲（学42期）

庶務：村上浩一（学32期）

監事：向井龍一郎（学27期）

地区幹事 和歌山・海南：藤田定則（学38期）

紀北：家田淳司（学53期）

有田：松谷良清（学32期）

中紀・紀南：丸山晋右（学41期）

日赤病院：吉田隆昭（学36期）

医大病院・関連施設：木下博之（学41期）

顧問：古田浩太郎（学14期）

田伏俊作（学20期）

内山和久（学32期）



【写真・当日ご出席の先生方（敬称略）】

前列左より 湯川裕史（学29期）西岡昭規（学23期）田伏俊作（学20期）橋本忠明（学25期）

向井龍一郎（学27期）柳川百世（学31期）

後列左より 片岩真依子（学54期）松谷泰男（学37期）平松政高（学55期）藤田定則（学38期）

山本直之（学53期）村上浩一（学32期）吉田隆昭（学36期）家田淳司（学53期）

松谷良清（学32期）丸山晋右（学41期）塩崎 憲（学42期） 計17名



大阪医科薬科大学女性医師の会からのお願い

大阪医科薬科大学女性医師の会では、ホームページ上で女性医師の先生方のご活躍や主催される勉強会などイベントのご紹介させていただいております。メディア掲載や活動報告、イベントの開催情報などをお寄せいただけますと幸いです。

メールアドレスのご登録申請も引き続きよろしくごお願い申し上げます。

どちらも、下記アドレスまでご連絡下さい。

omc-women@jinsenkai.net

ホームページへのアクセスは二次元コードを読み取りいただくのが便利です。



支部だより ●●●

仁泉会阿倍野支部総会ならびに音楽会の報告

文責／仁泉会阿倍野支部 会長
福本敏子（学24期）

令和4年10月29日（土）に令和4年度仁泉会阿倍野支部総会をセラトン都ホテル大阪にて開催いたしました。コロナ禍のため、3年ぶりの対面開催となりました。しかし、感染拡大のリスクを避けるため、従来の懇親会を行わず、総会とコンサートのみの開催といたしました。お忙しい週末の日でしたが14人が集いました。懇親会での飲食の代わりに、総会の始めからお茶とケーキを用意させていただき、黙食で召し上がっていただきました。

【総会】

始めに学11期の文殊敏郎先生が挨拶に立たれましたが、臨床を離れた今も、健康維持のためにゴルフやウォーキング等の運動は欠かさず、50歳から始められたピアノのレッスンも毎日続けていますと述べられました。生き生きとしたお姿に私達も見習わなくてはとの思いを強くいたしました。

その後、前回の総会から今までに逝去された方々に黙祷を捧げ、ご冥福をお祈りいたしました。その後の会長挨拶では、初めて出席された学60期の新宅将之先生をご紹介させていただき、今後ますます仁泉会阿倍野支部の連携強化を図っていきけるよう協力をお願いしました。その後、報告事項、協議事項も無事承認いただき、会員の近況報告に移りました。しばらくお会いできなかつ



前列左から 福本、井上、文殊、加納くみ子、新宅敬夫、森田利江、伊賀
後列左から 西口、新宅将之、森田眞照、横田、中野晋吾、中野久美子 敬称略

たのですが、皆様大きな体調変化もなく無事にコロナ禍を乗り切ってこられている様子が皆安堵しました。続いて、新宅敬夫副会長が閉会の挨拶に立たれ、ご自身は脳梗塞を克服され、現在は以前のように元気に甥の将之先生や弟さんと一緒に診療できている様子を披露され、総会は無事に終了いたしました。

【ピアノコンサート】

加納くみ子さんのピアノソロコンサートを楽しみました。加納くみ子さんは大阪芸大講師を務められ、大阪でご活躍のピアニストですが、普段は大きなホールで演奏される曲目を私達のためだけに演奏してくださいました。今回はショパンの楽曲の中から、ワルツ パラード、ノクターンなど私達になじみのあるものを選曲してくださいましたが、演奏の素晴らしさに、しばし日常を忘れ至福の時を過ごしました。



コンサート終了後、恒例の集合写真を撮り、なつかしい大阪医科大学の学歌を皆で、歌い（小声で）お開きとなりました。久しぶりに対面開催をしましたが、やはりZOOMでは味わえない同窓の絆と暖かさを共有することができました。今後も、支部会員一同、病診連携、診診連携を図りながら助け合ってまいります。

クラス会だより

あかつき会 in 京都 2022.10.23. (学24期クラス会)

文責／森本博子（学24期）

前回の淡路島でのクラス会のあと、本来なら2年ごと開催のクラス会ですので昨年開くべきところでしたが、コロナ禍で開催を断念せざるを得ませんでした。今年も計画しました頃は、第7波の収束が見通せない中でした。10月も後半なら感染も下降傾向になっているのではという予測のもと、ただ従来の宴会の後、二次会、宿泊し、翌日はゴルフ組と観光組、という形式は、コロナ禍の中では無理だろうと思い、昼間の宴会としました。昼間の会だと遠方からの参加でも日帰りが可能、という思いもありました。

会場はお料理がおいしくて眺めのいい、「ちもと」さんに決めました。案内を出してから返事がポチポチで出足が悪かったので、人数が少なかったら大広間がさみしいなあ、と不安になっていましたが、徐々に参加の返信がきて最終的に参加者は34名となりました。

正午からの開始にドタキャンなく皆さん、定刻に集まってくさるかしらと心配していましたが、皆さん12時までに集合!!誰も日にちを忘れずに開催時刻も間違

えずに集まってくれました。これは素晴らしいことです。まだ頭はちゃんと働いています。

井口先生の司会で、垣内会長の挨拶、後藤先生の乾杯の発声で宴が始まりました。途中からマイクをまわして近況報告、皆さんそれぞれ病気を経験したり抱えていたり、皆70歳代だからしかたがないですね。まるで症例報告のようでした。高血圧や高脂血症は病気のうちには入らず、脳梗塞、脳腫瘍、喉頭癌、白内障、緑内障、乗馬中落馬して骨折、慢性腎臓病、間質性肺炎、AFでアビュレーション、…よくぞこれだけ病を思いながら参加して下さったと、感謝するばかりでした。一方仕事から解放されて旅行三昧の人もあれば、ゴルフ、卓球、ウォーキングと体力維持に努めている人、ようやく初孫ができたことと喜んでいる人、8人の孫に恵まれて好々爺の表情、そしていまだ現役で仕事を続けている人、さまざまでした。

コロナ禍で医者という立場もあり、宴会は久しぶりという方が多かったように思います。家族単位とか少人数での会食はあっても、最近は医師会関係の講演会もwebの開催で、人とのつながりが少なくなったと感じています。やはり対面で会ってこそ、です。

あつという間の3時間でした。次回は大阪班が幹事です。3年後が大阪万博開催の年であること、われわれの卒後50周年の年になること、ということから、2025年大阪でのクラス会ということになりました。それまで、皆さん、お元気で。



前列左から、平川、大鶴、市原、平田、北村、鈴村、後藤、河崎、文、森本、福本、淀井、久保、井口、田中、西山、蒲原、芥川、石田、池上、森本福本、喜多、矢倉、北、天津、濱田、橘田、絵川、垣内、岡田、柿本、木村、加藤

クラス会だより

大阪医科大学 52年卒 (学26期) 同期会の報告

文責／水谷 均 (学26期)

長引く新型コロナウイルス感染症の蔓延のため延期となっていた同期会を今年10月22日(土)にホテルグランヴィア京都にて開催いたしました。

ホテルのコロナ対策は充分に行われており、広い部屋に1テーブルに5席の各々の間にパネルの仕切りがある状態でありました。

出席者は学友24名と奥様1名の計25名でありました。宴会前に全員の集合写真を撮り、18時から20時30分まで古今の間で宴会を行いました。

最初のこの3年間で亡くなられた4名の学友のご冥福をお祈りし黙祷を捧げました。幹事の開会の挨拶の後、出席者全員に簡単な近況などを報告していただきました。

内容としては、コロナに感染した時の体験談、歯槽膿漏の悪化から突然めまいが生じたこと、それに対する専門的な原因の説明、仕事を一年間休業し自由に過ごしたこと、腰痛のためゴルフの出来なくなったこと、学生時代からの剣道を現在も継続していること、医療を徐々に縮小して残りの人生を楽しんでいること、高

齢者にもかかわらず開業当時と変わらず仕事を続けていること、再婚に至った経緯を詳しく説明すること、これからの残りの人生に行きたいことについて話すこと等々、それぞれの出席者が思い思いのことを十分に話して会は大いに盛り上がりました。会の途中には総代の齊藤君より全員が70歳以上の高齢者となったため、この同期会開催の時期を従来通り2年おきにするか、又これから毎年開催するかどうかの提案がありました。結果は満場一致で、大阪と京都の交互に毎年開催することに決定されました。興味深かったのは出席者の話を聞くうちに、各々の話している時の態度、表情、口調や話の内容の長短、テンポ等が学生時代と全く変わらないことに気が付き驚きました。二次会は同館のメインバーオールヴィットにて19名参加で約2時間、楽しく酒を飲みながら各自が一次会では語りつくせなかった雑談に興じました。今回の開催で3年ぶりに本当に仲間と充実した時間を過ごすことが出来ました。



斎藤隆晴先生

最後に京都開催の世話役であった松本君が昨年12月に突然他界されたため、齊藤君と行村君に助けられ今回の会が開催されたことを感謝します。

尚、今回参加出来なかった同期の方には、是非次回のご参加をそして今回参加の方には次回の再会を楽しみにしております。



支部会・クラス会開催にあたって

支部会・クラス会開催にあたり、ご案内発送や出欠の集計等を仁泉会事務局にてお手伝いさせていただきます。お気軽にご相談ください。

仁泉会事務局 TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636
e-mail / jimuj@jinsenkai.net



ハードルをジャンプ!!

地元で 50年

薬袋・診察券・カルテなどの

医療印刷

タツミ印刷株式会社

お気軽にご相談下さい。

池田・高槻

tel: 072-761-8434



仁泉ひろば

jinsen-park

語源クイズ（1）

文責／西村 保（学4期）

万歳（ばんざい）

万歳（ばんざい）という語は中国で斉（せい）の時代（前386年～前221年）に天子の寿を祝って「民万歳（ばんざい）と称す」と「戦国策」という書物に掲載されている。

日本では桓武（かんむ）天皇の平安遷都（せんと）794年の時に、「群臣ともに万歳（ばんざい）と稱して再拜踏舞（とうぶ）す」と「三代実録」に書き記されている。その後、日本では「万歳（ばんざい）」と唱和する習慣がとだえ、次に「万歳」の語が出てくるのは明治になってからである。

明治28年（1899年）11月の大日本憲法発布の日、天皇を二重橋でお迎えるにあたって、群衆が「万歳」を「ばんざい」と云わずに「ばんざい」と叫んだ。

従って「万歳」は、中国語が語源であるが、日本で作られた読み方である。

弱冠

弱冠とは男子20才の異称である。中国の「礼記」には、「人、生まれて10年を幼と云いて学び、20才を弱と云いて冠す。30才を壮と云いて室あり、40才を強と云いて任う」とある。

つまり、冠すとは、20才で元服して冠をかぶせる事で一人前になったことを意味する。

逆鱗（げきりん）にふれる

昔から中国では麒麟（きりん）、鳳凰（ほうおう）、竜（りゅう）を神秘的な動物としてあがめてきた。中でも竜は特に強大な力を持つと信じられ皇帝になぞらえられている。

その竜のアゴの下には、1枚だけ逆に生えた鱗（りん）があり、ふだんはおとなしい竜も、この逆鱗（ぎゃくりん）にふれられると暴れだし手がつけられなくなる。

この言い伝えから、えらい人の怒りをかう事を云う。

月並

この言葉を作ったのは正岡子規であるが子規の友人で俳句の弟子でもあった夏目漱石が「吾輩は猫である」

をはじめとする数々の作品の中で使ったのでたちまち流行語のように、よく使われるようになった。

奈落（ならく）の底

さまざまな装置や道具が置いてある舞台の地下を「奈落（ならく）」と呼ぶが、もともとは仏教語で「地獄の底」という意味である。

サンスクリット語でも地獄の底のことを「ナラカ」というが、この音が転じて「奈落（ならく）」と呼ばれるようになった。

正念場

もはや失敗の許されない大事な場面とか、ここ一番のふんばりどころといった意味に使われる。

もともとは「性根場（しょうねば）」という芝居用語であり、主人公の性格の根、つまり、奥深い部分まで、じっくりと表現する場面という意味で芝居の見せ場である。

段取り

段取り（だんどり）とは石段、特に寺社の階段を作るとき、現在は石段の高さ、勾配など、すべて工学的に計算されているが、昔は職人の経験とカンだけが頼りだった。つまり現場の勾配を見て何段の階段を作るかを職人が見積もって石段を組んだのである。その過程を段取りと云った。

ここから下準備のことを「段取り」というようになったのである。

金輪際（こんりんざい）

金輪際とは、「断じて」とか「底の底まで」という意味で、極めて強い決意を示す語である。もともとは仏教から生れた語で、仏教の教えによれば、大地の下に、世界をささえる四つの輪があり、大地のすぐ下が金輪で、以下、水輪、風輪、空輪と続く。金輪際は金輪の下で水輪と接するところをいい、仏教では、その部分を大地の最下底とし、物事の極限と考えたのである。

図星（ずぼし）

図星（ずぼし）とは物事の本質とか真実をズバリと指摘するという意味である。

図星（ずぼし）の図は印のことで、星は小さな点のことである。これは弓道からきた言葉で、矢を射的の中心にある黒い点を云うのである。

図（ず）に乗る

物事が調子よく運んで、少々いい気になったり、つけあがりすることを云う。

仏教において葬式や儀式の時に僧がとなえるのを声明（しょうみょう）と云うが、これはキリスト教の讃美歌のようなものである。

「図（ず）」とは、この声明（しょうみょう）の転調を示す図表のことで、吟唱（ぎんしょう）しながら転調がうまくいくことを「図（ず）に乗る」と表現したのである。

豹変（ひょうへん）

豹変（ひょうへん）の豹（ひょう）は猛獣のヒョウのことである。

最所は親しげに近づいてきた人が、ある時から態度を一変することを云う。

これは中国の「易経（えききょう）」の中の話で、「君子は豹変す（くんしはひょうへんす）」からきている。つまり君子は自らの過ちと知ると、その過ちをみずから改めるという意味である。

つまり、豹の斑点が極めて目立っているように君子は過ちを改めるのがはっきりしているのである。

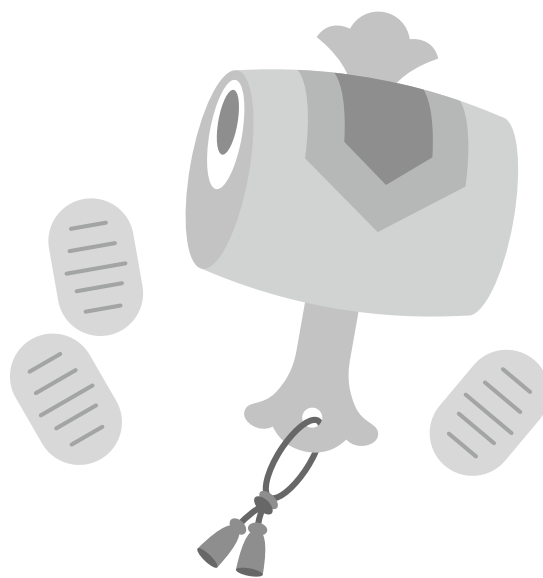
ご投稿のお願い

会員相互および母校とのコミュニケーションや情報交換の場として「仁泉会ニュース」を引き続き利用させていただきたいと思っています。会員の先生方より本誌に対する忌憚のないご意見をいただき、同窓会の活動をさらに充実させていきたいと考えています。下記の要領にて、多くの会員皆様からの投稿をお願いします。

- 支部会、クラス会、趣味の集会などの案内や報告
- 「仁泉ひろば」のコーナー
- 研究論文の要約（以前に他誌に投稿された内容でも結構です）
- 随想、紀行、写真、絵画、俳句、短歌、川柳などの趣味や特技
- 紹介したい店、場所、物など
- 本誌に取り上げて欲しい話題
- 字数には制限は設けません。葉書1枚、便箋1枚でも結構です。
- 広告に関して

会員自身が出される広告は現在100字程度までは無料です。内容は、人材募集、開業場所の紹介、医院承継、ブライダル、趣味の発表会の案内などです。詳細については事務局までお問い合わせ下さい。（内容により有料の場合があります）

事務局編集係



南米ボリビアでの思い出 ～美女とお祭り～

文責／小笠原 博（学13期）

私、縁があって1968年から約3年間、当時の海外移住事業団（現在JICA国際協力機構）の派遣医師として約3年間、南米ボリビアで現地の医療に従事しておりました。

ボリビアの国土は日本の約3倍、人口は当時日本の1/13。日本の人口に置き換えますと約900万人余となります。

南アメリカのほぼ中央部に位置するボリビアは美しいアンデス山脈が北から南へと跨っており、寒いアンデス山脈の高原地帯と年中涼しい谷間地域、それに常時真夏とも言えるアマゾン地域に大きく分けられます。

私が赴任したところは、ボリビア第3の都市といわれておりました「サンタクルス」から約80Km離れた農耕地で、この地に1955年から日本人が移住者として入植し、当時約1500名余の日本人とそれに不随したボリビア人労働者1000名あまりが定住しておりました。ここに日本から農耕指導者、学校の先生、土木技師、医師等が派遣され、彼等の生活を支え向上させるべく活躍しておりました。

就任当初、水もなく電気もなく、明りは文字通りアラジンのランプ（石油を利用したもの）を使用、水は地下300mまでパイプで掘り下げた井戸に水中ポンプを使い、汲み上げたものを利用（しかし常時使用出来ない）し、風呂にはいつも水をためて非常用としておりました。その為、夜は暗くなったら早く寝て、明るくなったら起きるの繰り返しでした。地元の小中学生は通学に蛇や蚊のうじゃうじゃした山道を馬に乗り（一頭に2～3人）通学しており、私達は彼等をマイカー族ならぬマイホース族と呼んでおりました。彼等は皆貧乏で着ているものもボロボロでしたが底抜けに明るく、時にはしゃぎすぎて先生に叱られる光景は日本のそれと全く変わりません。唯、先生の叱り方は日本と大きくちがっており、「そんなに言うことを聞かないなら、明日から3日間学校を休みにするぞ」と怒鳴られると、皆たちまち「しゅん」としてしまふのです。彼等にとっては学校は唯一の休養、楽しみであり、家に帰れば赤ん坊の世話から食事の支度まで全部しなければならず、休む暇もない程働かなければならぬの

です。移住者の家族は少ないところで6人位、多いところでは10名以上もあり、両親は朝早くから畑や牛の世話に追われる為、赤ん坊の世話や食事づくりは小学生ともなればするのが当たり前の事でした。

ところで、この地で医療以外に一番思い出が残っているのがお祭りです。南米のお祭りといえば、リオのカーニバルがあまりにも有名です。カトリックのイースター（キリストの復活祭）の前の40日間は禁欲期間とされている為、その前の数日間を開放的に楽しもうというのがカーニバルの由来です。大体2月～3月初めの土曜日から火曜日までの4日間となっています。この時期は南米全土の町や村で行われているようで、ここボリビアでも例外ではありません。ここでは、ブラジルのリオデジャネイロでおこなわれる国際的なショーに比べますとはるかにドク臭いとも思いますが、実質的な面白さがあります。山車の上には仮装を凝らした女性達が満載されて、町の目貫きを練り歩き、そしてその年の女王を選出する運びとなっています。

山車（トラックの荷台）の上には揃いも揃って、みんな目移りするような美しいセニョリータ達が多く、スペイン系の顔立ちもあり、また混血も含まれています。

夜になると更に面白くなります。女性達は皆覆面をかぶり（マスカラ…マスクをかぶった女）服装をかえて身元がばれぬようにして行動できます。女性開放の夜として認められ、例え夫でもこの日は妻をとがめる事は出来ないとの事。男の方も美人かどうかかわからぬまま覆面の奥の瞳を見つめながら、やみくもに口説く事ができます。飲んで踊って口説き口説かれ夜を明かす。我々日本人男性にとっては、よだれが流れ出す光景ですが、しかし、スペイン語を話せないと全く馬鹿馬鹿しい一夜となってしまいます。海外に行く時は、少なくとも会話が出来るようにしておきたいものです。・・・反省をこめて…。



山車(トラックの荷台)の上に美しいセニョリータ達が並ぶ



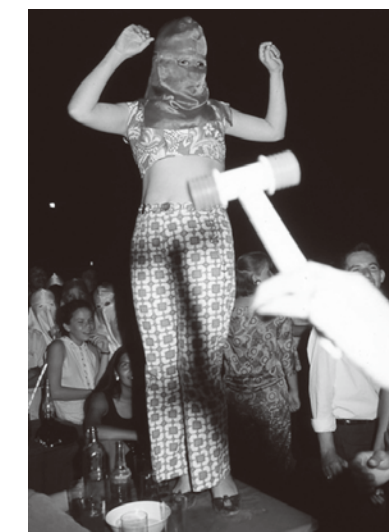
この年に選ばれた女王



筆者(中央)



女性のみマスクをかぶることが許される



テーブルの上に乗るマスカラ
(マスクを被った女性)

仁泉ひろば

jinsen-park

青葉茂れる桜井の駅について

文責／岡野 准（学 21 期）

明治36年、落合直文作詞、奥山朝恭作曲の「大楠公の歌」或いは「桜井の決別」と呼ばれている歌の歌詞・一番に『青葉茂れる桜井の 里のわたりの夕まぐれ 木の下陰に駒とめて 世の行く末をつくづくと 忍ぶ鎧の袖の上(え)に 散るは涙かはた露か』と有ります。

大楠公（楠木正成）と息子正行親子の涙の別れを歌ったもので、桜井の駅は汽車・電車の「駅」ではありません。ここで言う「駅」とは、律令政治にて制定された所謂「公用の休憩場所や宿」で、一番有名なのは大宝律令（701年制定）です。行政区分を五畿七道に分けて政治緊急の通信や公用の旅行などで不便がないようにと都から全国に向けて直線的な道路網を敷いたものです。桜井と有りますから奈良県の桜井市にあるものかと思うと違うのです。

実際には大阪医大関係者には身近な阪急京都線の「水無瀬」駅のほんの近くです。住所地で表すと、大阪府三島郡島本町桜井一丁目、国指定史跡になっています。

「水無瀬」駅からですと国道171号線から離れる方向（北西）真っ直ぐ数百メートル歩くと旧西国街道に当たりますが、そこに有ります。旧 摂津国嶋上郡桜井村にあった古代律令制度での宿駅の跡で1336年、足利尊氏（1305～1358年）を討つべく湊川に向かう楠木正成（生年不詳～1336年）が、嫡男の正行（生年不詳～1348年）を河内国に帰らせた、「楠公父子訣別之所」として知られています。

戦前には天皇を守るために命を懸けた楠正成が忠孝の祖として崇められましたので、国の指定史跡になりましたが現在では訪れる人も少なく、かなりの広場があるのですが遊具もない為か近所の子供たちも遊んではいけません。

日露戦争における陸軍大将・乃木希典筆「楠公父子訣別之所」の碑、海軍大将・元帥東郷平八郎筆「子わかれの 松のしづくに 袖ぬれて 昔をしのぶ さくらゐのさと」（明治天皇御製）の碑や、大隈重信手植の松など、日本の歴史を感じるスポットです。

近くには名水の汲める水無瀬神社も有りますので

らっと立ち寄るには気持のよい場所です。駐車スペースは有りませんので自転車かバイク或いは阪急電車利用か徒歩をお勧めします。

因みに「大楠公の歌」或いは「桜井の決別」という歌はダークダックスや春日八郎・ソプラノ歌手西尾薫が歌っていてパソコンで検索すれば聞く事が出来ます。

最近アニメや映画・漫画・歌の場所を聖地と称して人が寄り集まるようになりましたが、この「桜井の駅」も流行りでは有りませんが謂わば聖地でしょう。もう少し東へ行くとウイスキーの聖地「大山崎」です。大山崎は予約無しでも工場見学ができ無料の試飲も有ります。コロナ騒ぎで外出や会合もままならず、こもりがちになっていますが頃合いを見てお出かけになるとそんなに込んでもいけませんので、良い気晴らしになると思います。



仁泉ひろば

jinsen-park

高医16期卒 前田義雄先生について 第3回

文責／西野精治（学 31 期）

16期卒の前田義雄先生は12月18日に満98才をお迎えになり今年は白寿のおめでたい歳となります。

義父は大阪赤十字病院に長く勤めており赤十字病院でインターンをしていた義母（前田慶子先生）と出会ったのも赤十字病院でした。

長くお世話になった病院なので退職した先生方をとりまとめて博心会と言う会を作りOBの立場から病院を見て良いところを褒め称えるまた、気になった事には遠慮なく小言を言うと言う役目をしておりました。このような精神は大きな組織には非常に有り難い事だと思います。

義父のお父様は大阪の北浜で古美術商をなさっていた方で大阪美術倶楽部の会員でもあられた方でした。

子供の時から本物の美術品を身近に感じて育った環境だったらしく身につける物や手にする小物にもこだわりのある方です。学生時代の万年筆、カメラ、時計、オーディオの話なども詳しく語って下さっていました。

また、ネルの袋を使って早めにドリップコーヒー入れておられたり、昔からハイボール作るために家庭用の炭酸水用のボンベを用意されてもおられました。

60過ぎてから趣味で油絵を描き始め創造展の会員になり毎年絵の展覧会にはどこで時間を見つけるのだろうと思うくらいの大作の油絵を出展なさっていました。

2022年の12月1日から6日まで大阪皮膚科医会美術同好会展が午前11時から心齋橋の小丸画廊で開かれました。この会も義父が立ち上げたもので、今年で35回目となりますが毎年欠かさず前田慶子先生と夫婦で出展しておりました。

大阪医大には非常にお世話になった。本当に有り難い学生生活を送る事が出来たと常々感謝しています。

大学が合併して大阪医科薬科大学となった事に関しても大変喜んでおりました。

自分達の時とは世の中がすっかり変わってしまっていますが先の先を読んで物事を大きくとらえる事が大事だと申しております。

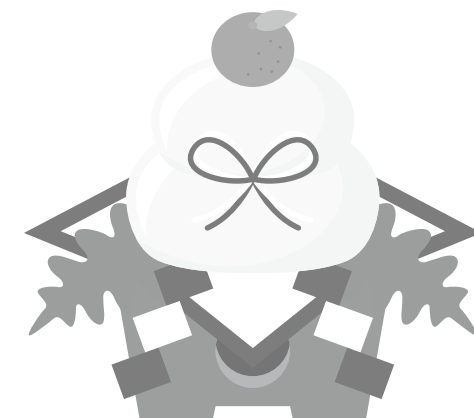
コロナになり同窓会もままならなかったのですが白寿の同窓会が開催できる事を願っています。

2023年5月11日には結婚70周年を迎えます。その日の事も楽しみにしています。

義父前田義雄先生の思い出をシリーズで書かせて頂いていましたが11月19日に訃報のニュースがアメリカに届きました。

毎回私が書いた拙い文章でも喜んで目を通して頂いていたのでもっと続けるつもりが非常に残念です。

次回追悼文を書かせて頂き最後にしたいと思います。



会 員 著 書

東野正明(学49期)

新春の候、仁泉会員の先生方におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。学49期で本学耳鼻咽喉科・頭頸部外科の東野正明と申します。

このたび、小生と本学耳鼻咽喉科・頭頸部外科の医局員、および耳鼻咽喉科・頭頸部外科病棟の看護師が執筆した“ぎゅっと耳鼻咽喉科看護”をメディカ出版より出版させていただきました。出版社から、耳鼻咽喉科外来で初めて仕事を始める看護師や、病院の耳鼻咽喉科病棟に配属になった看護師向けに、できるだけわかりやすい本を作成してほしいとの依頼を受けました。できるだけ文字は最小限とし、わかりやすくイメージしやすいように写真やイラストを多くいれて、耳鼻咽喉科の看護に関わる内容を161ページに“ぎゅっと”まとめています。耳鼻咽喉科頭頸部外科医師に加えて、看護師にも執筆を協力いただいたことで、よりわかりやすい本に仕上がりました。耳鼻咽喉科のスタッフだけでなく、内科や救急外来のスタッフの方々でも手に取っていただきやすい内容となっています。

本の内容ですが、第1部では難しく敬遠されがちな耳鼻咽喉科領域の解剖生理をわかりやすくまとめています。第2部では耳鼻咽喉科診察における特徴を書いています。第3部の各論では、代表的な耳分野を11疾患、鼻分野を5疾患、口腔・咽頭・喉頭疾患分野を12疾患、頭頸部腫瘍分野を4疾患ピックアップしました。この32の代表的な疾患で耳鼻咽喉科外来に来院される大部分の患者を網羅できているのではないかと考えています。第4部ではその他の治療として、これまで書籍ではあまり扱われてこなかった放射線治療やがん薬物療法、終末期医療や社会的サポートについても取り上げました。

各論では基本的に、4ページまでのコンパクトな形にしました。1ページ目はその項をぎゅっとまとめシート、ぎゅっとポイント、ぎゅっとイメージにまとめています。2〜3ページ目は症状・所見・診断・治療をまとめています。4ページ目は看護師が各疾患の看護について重要なポイントをまとめています。また、本の Mascot キャラクターである“じびぞー君”がコラムという形で、点耳薬をどう使用してもらうように指導したらいいのか?、鼻出血患者の初期対応をどうすればいいのか?、外来で小児を安全に診るためにどう体を固定したらいいのか? などといった疑問について解説しています。さらに、ぎゅっと器機紹介では、耳鼻咽喉科で使用する検査機器や、診察器具、補聴器などにも触れています。

この本の最大の特徴は、特に重要でよく出会う疾患を中心にWeb解説動画が11本もついていることです。こちらはQRコードを読み取ることで何度も再生できます。本を読むだけではわかりづらい内容でも理解が深まるように解説させていただきました。価格も2970円(税込み)とお求めやすい価格設定となっています。

本書が耳鼻咽喉科疾患に携わる看護師だけでなく、ご指導いただく医師や共に働くスタッフの皆様にも役立つことを願っております。是非、ご一読いただければ幸いです。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお祈り申し上げます。



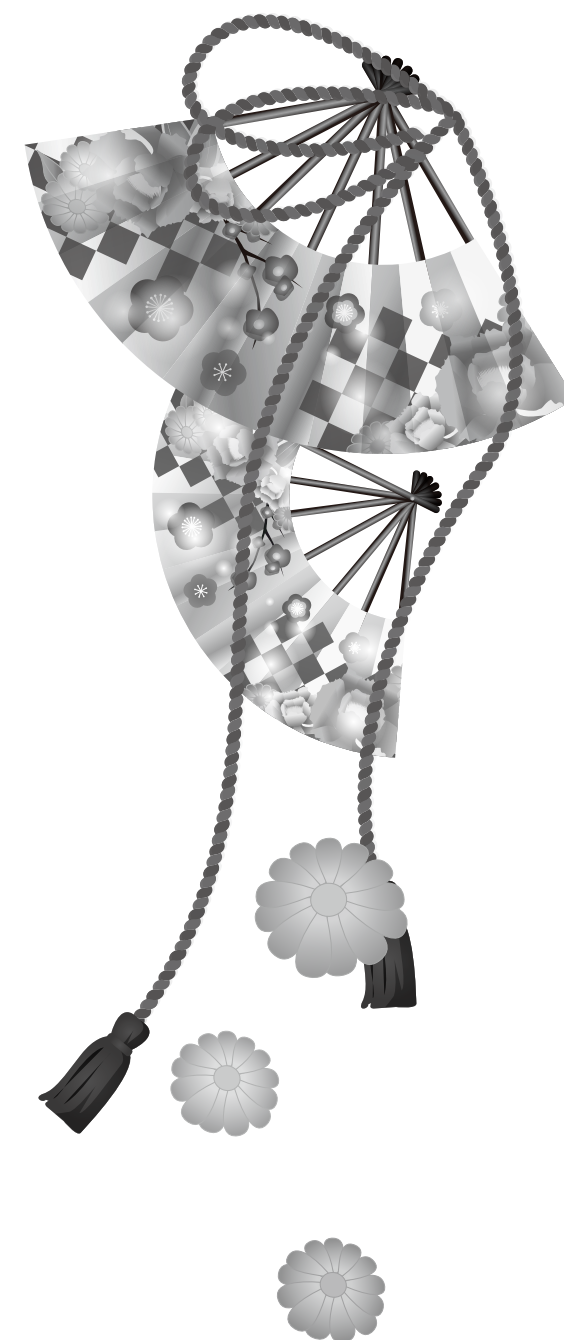
(著者略歴)

- 東野正明 1974年9月10日生まれ
- 2000年 大阪医科大学卒業
- 2000年 大阪医科大学研修医
- 2001年 市立枚方市民病院 耳鼻咽喉科 医員
- 2004年 福井大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科 医員
- 2006年 洛和会音羽病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 医員
- 2007年 国立病院機構大阪医療センター 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 医員
- 2010年 大阪医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科、助教
- 2012年 大阪府済生会中津病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 医員
- 2013年 大阪医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科、助教
- 2015年 同、講師(准)
- 2017年 同、講師
- 2021年 大阪医科薬科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師

現在に至る

資格

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 専門医、日本頭頸部外科学会 頭頸部がん専門医、がん治療認定医、日本気管食道科学会 専門医(咽喉系)、日本嚥下医学会 嚥下相談医、日本耳鼻咽喉科学会 補聴器相談医



メディア掲載・書籍発行の際は 編集部にお知らせください

テレビ、ラジオ、新聞などのメディアにご掲載になられた会員諸先生方がおられましたら掲載された原本を同封のうえ、事務局までお送りください。(自薦・他薦は問いません)

仁泉会事務局 TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636 e-mail / jimu@jinsenkai.net

新聞切抜

赤尾幸博（学27）教授、研究成果発表

当支部所属の赤尾幸博特任教授（岐阜大学大学院連合創薬医療研究科）と杉戸信彦特任助教（同科）による研究成果が、米科学誌「モレキュラー・セラピニュークレイック・アシッツ」に掲載されました。今後の癌治療薬の開発に大きな影響を与え、トレンドが移行する可能性がある「画期的な発見」として注目されており、日経バイオ・オンライン及び地元の岐阜新聞で報道されました。

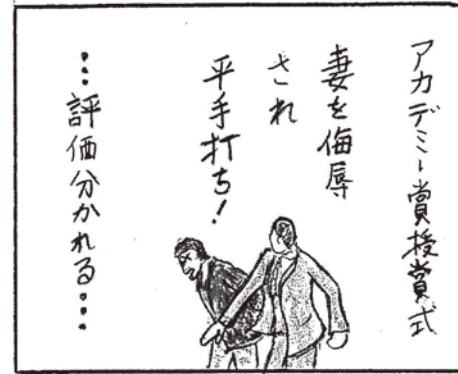
赤尾先生の研究が世界の医療に貢献されるよう、益々のご活躍を支部会員一同ご祈念申し上げます。

岐阜県支部長 小嶋昭次郎（学29）

まんが59

ピン太ぼん太（学31期）

平手打ち



悔やまれる...



岐 阜 新 聞 2022年(令和4年)11月11日 金曜日

がん増殖 阻害物質発見

岐阜大、遺伝子変異の仕組み解明

新型の医薬開発に道

岐阜大（岐阜市柳戸）は大腸がんや膵臓がんによく見られる細胞の増殖に関わるタンパク質「RAS（ラス）」の遺伝子変異ががん細胞が増殖する仕組みを世界で初めて解明し、増殖する作用を阻害する化学物質を発見したと発表した。ラスの変異遺伝子が確認されたがんは効く薬の開発は世界的に難航しており、同大は「画期的な発見」としている。

同大学院連合創薬医療情報研究科の杉戸信彦特任助教と赤尾幸博特任教授による研究成果で、米科学誌「モレキュラー・セラピー・ニュークレイック・アシッツ」に掲載された。ラスが細胞を増殖させるために発する信号は、別の数種類のタンパク質とのネットワークになっており、ラスだけを抑えても増殖は止められないことが、治療薬を開発する上で課題とされてきた。そこで杉戸氏は複数の遺伝子の機能を抑制できる小さな核酸「マイクロRNA」に着目し、核酸にフッ素などを化合して作用を強化する化学修飾を施した。研究では、ラスを抑えて

も増殖が止められないのはネットワークの下流で再びラスが現れ、増殖を促す「生存経路」が生じることが原因だと明らかにした。その上で開発したマイクロRNAを用いると、ラス遺伝子だけでなくネットワーク上のほかの重要な遺伝子の働きも阻害することができ、経路の活性化を抑えられたという。

医薬品への応用に向けては薬を患部まで届ける技術の開発が課題として残るが、岡氏は「これまでの抗がん剤は、一つの分子にしか効かない分子標的薬が主流だったが、今回の発見でRNAを標的にした医薬の開発へトレンドが移行する可能性もある。画期的な発見だ」と話している。

開業しました!

伏谷英朗先生 (学 47 期)

名称 本町ふしたに内科・消化器内視鏡
クリニック
住所 〒550-0012
大阪市西区立売堀 1-8-1
本町立売堀ビル1F
電話 06-6533-3633
FAX 06-6533-3634
診療科目 内科 消化器内科 内視鏡内科
診療時間 午前 9:00~12:00
午後 17:00~19:00
休診日 水曜、土曜午後、日曜、祝日
ホームページ <https://fushitani-cl.com/>

開業しました!

大藪 寛先生 (学 55 期)

名称 おおやぶ内科・整形外科
住所 〒615-8142
京都市西京区榎原畔ノ海道 10-42
電話 075-381-2716
診療科目 内科、整形外科
診療時間 内科
午前 8:30~12:00
午後 15:30~18:00
整形外科
午前 9:00~12:00
午後 16:00~18:30
休診日 内科
水曜午前、木・土曜午後、日曜
整形外科
木・土曜午後、日曜

開業しました!

田中健太郎先生 (学 57 期)

名称 クリスタル本町クリニック
住所 〒550-0005
大阪市西区西本町 2-1-4
宇佐美西本町ビル3F
電話 06-6533-2222
FAX 06-6533-2221
診療科目 産婦人科 美容皮膚科
診療時間 産婦人科
午前 8:30~13:00
オンライン診療 14:00~17:00
午後 17:00~20:00
20:30~22:00
日曜日午前 11:00~14:00
日曜日午後 15:00~18:00
美容皮膚科
午前 10:00~13:00
オンライン診療 14:00~17:00
午後 14:00~20:00
日曜日午前 11:00~14:00
日曜日午後 15:00~19:00
休診日 金曜、土曜
ホームページ <https://www.crystal-honmachi.com/>

本部だより

支部長交代のお知らせ

<箕面市支部長>

前支部長 清木康雄先生 (学 33 期)
↓
新支部長 伊藤 大先生 (学 43 期)

<和歌山県支部長>

前支部長 田伏俊作先生 (学 20 期)
↓
新支部長 湯川裕史先生 (学 29 期)

会員訃報

次の会員が亡くなりました。
慎んでご冥福をお祈り致します。

事務局編集係

高医16期 前田義雄先生

令和4年11月19日心不全の為に逝去 (97歳)。

昭和22年卒。

大阪日本赤十字病院にて泌尿器科部長として勤務になられた後、大阪市生野区にて前田医院を開設されました。大阪府社会保険支払基金審査委員、大阪府医師会広報部会理事、生野区医師会副会長をお務めになり地域医療に貢献されました。東南ロータリー会長、創造美術会員でもありました。

ご遺族 妻 慶子様

高医17期 倉内道治先生

令和4年10月17日老衰の為に逝去 (97歳)。

昭和23年卒。

大阪府保健所、大阪府赤十字血液センターにて勤務になり、地域医療に尽力されました。9月の会報も楽しみに読んでおられたとのご遺族様のお言葉です。

ご遺族 長女 嶋田真美様

高医20期 中山一英先生

令和4年6月24日急性心臓死の為に逝去 (96歳)。

昭和26年卒。

卒業後、姫路赤十字病院にてインターンとして勤務されました。昭和27年~母校耳鼻咽喉科、昭和29年~大阪赤十字病院での勤務になり、昭和36年に母校より医学博士号を取得されました。昭和38年~大阪明眼館病院、昭和41年~大阪交通局病院、昭和43年~平成3年兵庫県立西宮病院にて勤務になり、地域医療の為に尽くされました。

ご遺族 次男 宗八様

学部6期 笠川 脩先生

令和4年8月9日肺炎の為に逝去 (90歳)。

卒業後、母校第二外科、麻酔科に在籍され、昭和40年に医学博士号を取得されました。

同年より医療法人仙養会北摂病院にて外科部長、手術部部長、副院長を、平成6年より医療法人清仁会丸茂病院(水無瀬病院)にて外科顧問をお務めになられ、昭和53年~平成13年母校にて非常勤講師(外科学)として勤務になられました。日本小児外科学会近畿評議員、日本臨床外科学会評議員、日本医師会認定産業医、健康スポーツ医外科専門医、レーザー医学会専門医として医療の為に尽力されました。

ご遺族 長女 富永真澄様

学部14期 大矢 貴先生

令和4年6月28日パーキンソン病の為に逝去 (87歳)。

昭和40年卒。

東京都大田区にて大矢クリニックを開設され、地域医療に貢献されました。

ご遺族 妻 正子様

学部24期 前田敏子先生

令和4年11月6日胃がんの為に逝去 (71歳)。

昭和50年卒。

平成10年10月に名古屋市にてコスモスこどもクリニックをご開院になり、地域医療に携わっておられました。

ご遺族 子 池澤瑞輝様

ご開業の際は 編集部にお知らせください

新規でご開業された会員諸先生方がおられましたら
事務局までお知らせください。(自薦・他薦は問いません)

仁泉会事務局 TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636
e-mail / jimu@jinsenkai.net

令和5年度仁泉会学術集会助成申請について

令和5年度（2023年4月1日～2024年3月末日）において、仁泉会会員が主催する学会に対する助成申請の受付を開始しております。助成を希望する会員は規程をご一読の上、申請書を**令和5年1月末日までに**事務局までご提出ください。申請書は仁泉会ホームページからダウンロードいただくか、事務局にお問い合わせ下さい。

仁泉会事務局

jimu@jinsenkai.net tel:072-682-6166 fax:072-682-6636

仁泉会ホームページ

大阪医科薬科大学仁泉会

検索

編集部より

会費納入のお願い

年会費

令和4年度 10,000円

令和3年度 10,000円

令和2年度 10,000円

納入のご協力をよろしくお願い致します。

事務局 会計係

原稿募集のお知らせ

仁泉会ニュースの原稿を募集しております。日々の診療で感じられた事、研究報告、趣味のお話やクラス会や支部会のご報告なんでも結構です。

ご投稿お待ちしております。

●54巻2号（令和5年3月1日発行）

締切 令和5年1月末日

●54巻3号（令和5年5月1日発行）

締切 令和5年3月末日

●送付先：仁泉会事務局 〒569-8686 高槻市大学町2-7

E-mail：jimu@jinsenkai.net FAX:072-682-6636

編集後記

明けましておめでとうございます。同窓諸兄弟におかれましてはどのような新年をお迎えになられたでしょうか。波が重なるたびに感染者数が増加している新型コロナ感染もなかなか終息せず、丸三年を経過しました。今後あらたな薬品が開発されることを期待しています。

仁泉会ニュースは新年号ですので、新春ご挨拶が20編と久しぶりに賑やかな紙面になりました。支部便り、同窓会便りも寄せられています。支部会は懇親会なし。同期会は懇親会付きと対応が違っているようです。まだまだ感染予防のため、多人数での会食がはばかられま

すが、同期なら「まあええか」というところでしょうか。小筆の所属する医師会でも新春懇親会は中止せざるをえませんでした。

コロナ感染症だけではなく、物価高や円安。景気回復も遅々として進まず日本全体が閉塞感に包まれています。ある医師向けの調査で、2022年の漢字は「禍」、2023年に期待する字は「明」だったそうです。今年こそは明るい年になってくれることを望んでいます。

皆様のますますのご活躍、ご健勝をお祈りするとともに、仁泉会ニュースのご愛読もよろしくお願いいたします。

(治)

謹賀新年

皆様のご健康とご多幸を
心よりお祈り申し上げます
本年もどうぞよろしくお願ひ致します
令和5年 元旦

大阪医科薬科大学仁泉会 役員一同



原稿募集

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、予定されているクラス会や支部会などが中止若しくは延期を余儀なくされ、原稿が大幅に減っております。ご多忙とは存じますがテーマ、題材を問わず広く原稿を募集いたします。ご寄稿お待ちしております。

例：新型コロナウイルス感染症に対する日々の取組み、診察対応など近況報告等

仁泉会事務局 TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636

e-mail / jimu@jinsenkai.net

2024年春開業医療ビル 医院/クリニックの 新規・移転開業向けテナント

2024年1月竣工予定 JR「高槻駅」徒歩3分「けやき大通り」沿い テナント募集開始



人気エリア高槻
大阪北摂の人気エリア高槻
好立地、視認性も高く
良好な集患が見込めます。



抜群のアクセス
JR京都線高槻駅徒歩3分
阪急京都線高槻駅徒歩6分
バス通りに面しアクセス抜群。



医療に特化
バリアフリー・電気容量・
13人用エレベーターなど
医療向け仕様で設計。



物件詳細

名称 (仮称)彩(さい)メディカルモール
 事業主(貸主) 世紀エステート株式会社(ホテルクレストいばらき)
 所在地 大阪府高槻市上田辺町10番2号
 (旧 TSK けやき通り駐輪場)
 交通 JR 高槻駅南口より徒歩3分
 阪急電鉄高槻市駅出口(北側)より徒歩6分
 バス停「市役所前」(市営・京阪)より徒歩1分
 用途 医療テナント用ビル
 規模 地上6階建
 構造 鉄筋コンクリート造
 設計 大昭工業株式会社一級建築士事務所
 施工 大昭工業株式会社
 エレベーター 13人用(1台)
 竣工予定 2024年1月31日(予定)
 募集予定区画 6~8区画
 区画面積 30~70坪
 募集階 1~6階
 募集科目 内科 外科 整形外科 眼科 耳鼻咽喉科
 皮膚科 形成外科 美容外科 小児科
 産婦人科 泌尿器科 心療内科 歯科 他
 賃貸借条件等 お問い合わせください



お問い合わせ先
 大阪府茨木市駅前一丁目3番2号
 世紀エステート株式会社 (ホテルクレストいばらき)
 医療ビル開業準備室 担当：天野
 ホームページ：<https://crest-medical-mall.com>

E-mail:t-amano@ad-mitsuwa.com
 TEL:072-620-2020 (ホテルクレストいばらき)
 TEL:090-5056-5813